

ふくしま田園中枢都市圏ビジョン

令和4年3月

(令和7年3月 一部改訂)

福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町
国見町 川俣町 大玉村 飯舘村

目 次

第一章 連携中枢都市圏の形成に向けて

1. ビジョン策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村
（1）連携中枢都市圏の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（2）連携中枢都市圏の構成市町村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 取組の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
4. ビジョンの推進体制と進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
5. 構成市町村の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第二章 連携中枢都市圏の将来像

1. 圏域の現状と主な課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
2. 圏域の強みや特長等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
3. 圏域が目指す将来像と方向性及び連携施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
4. 圏域が目指す人口目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
5. 施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第三章 連携協約に基づき推進する具体的取組

1. 具体的取組の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
2. 具体的取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 方向性1 圏域全体の経済成長と復興創生をけん引する・・・・・・・・・・・・・ 29
- 方向性2 圏域全体へ経済効果等を波及させる
高次の都市機能を集積・強化する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 方向性3 暮らしやすい 住みたくなる 魅力あふれる圏域をつくる・・・・・・ 37

資料編

1. 市町村別の若年層（20歳～29歳）人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
2. 圏域内の産業の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
3. 圏域内の都市機能の集積状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
4. SDGsの各目標の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

第一章 連携中枢都市圏の形成に向けて

1. ビジョン策定の趣旨

我が国では、人口減少・少子高齢化が急激に進行しており、本圏域においても、将来人口は平成27年（2015年）の約49万7千人から25年間で約24%減少し、令和22年（2040年）には約37万6千人、高齢化率は平成27年（2015年）の約29%から令和22年（2040年）には約41%になると推計されています。

とりわけ、地方都市においては、東京一極集中が進む中、特に若年層の女性人口が減少するとともに、晩婚化が進む状況と相まって、出生数も増えず、地域の持続可能性が弱まっていくことが懸念されます。

こうした状況に対応していくためには、生活圏や経済圏を同じくする近隣自治体がそれぞれの強みを合わせ、広域連携により大きな効果をもたらす施策とともに、ポストコロナ時代において地方暮らしに目を向ける方々を一層引きつける施策を戦略的かつ積極的に推し進め、人口減少の流れを変え、持続可能な地方都市圏を形成することが重要です。

本圏域においては、平成30年11月に自治体連携の枠組みとして「福島圏域連携推進協議会」を設立し、広域連携の取組を進めてきました。

東京圏からのアクセスが良く、都市としての高い生活機能と利便性を持ちながら、豊かな自然と農村が織りなす田園を併せ持ち、温かみのある地域社会が形成された中で、ゆとりのある生活をおくることが出来る圏域であり、南東北の要の都市圏としてさらなる発展を目指していく必要があります。

また、東日本大震災及び原子力災害からの復興はまだ道半ばであり、県都福島市を有する圏域として、充実した高速交通網等を活用して復興創生をさらに推進し、本県の復興創生をけん引していかなければなりません。

本圏域では、連携を一層深め、それぞれの持つ都市機能や強み、特長等を生かし、魅力あふれる圏域の実現に向けた取組を計画的に推進するため、本ビジョンを策定するものです。

2. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村

(1) 連携中枢都市圏の名称

ふくしま田園中枢都市圏（以下「ふくしま圏域」という）

(2) 連携中枢都市圏の構成市町村

福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、飯舘村

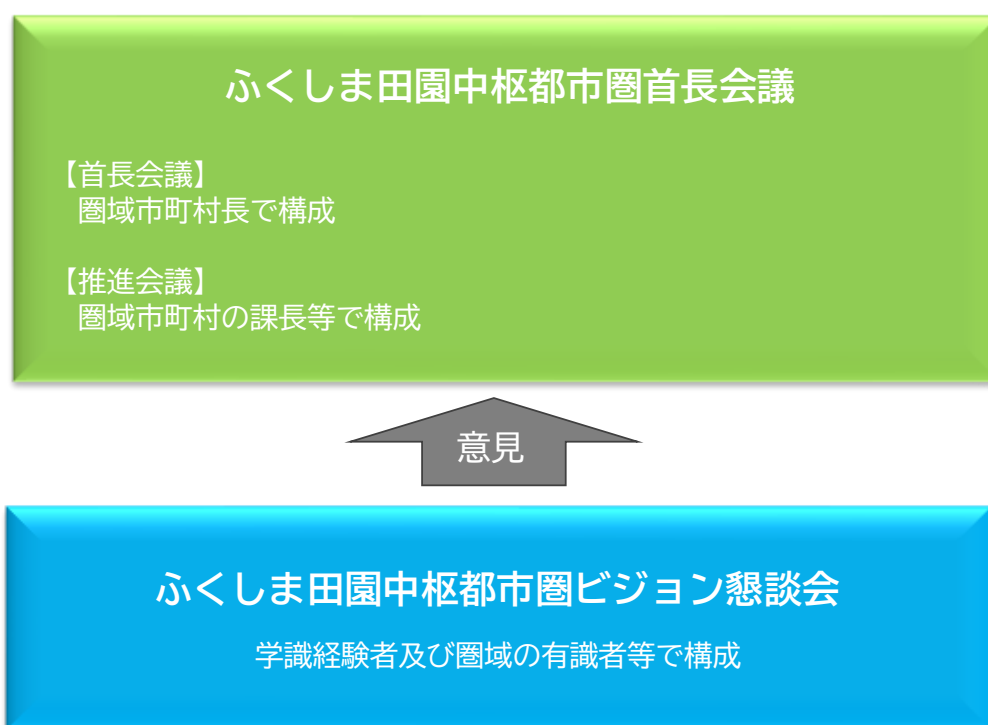
3. 取組の期間

令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）の5年間

4. ビジョンの推進体制と進捗管理

本ビジョンを着実に推進するため、ふくしま圏域の各市町村長で構成する「ふくしま田園中枢都市圏首長会議」を設置し、毎年度、本ビジョンに基づき推進する連携施策や具体的取組等の進捗管理や意見交換等を行い、必要に応じて適宜、本ビジョンの見直しを行います。

また、本ビジョンの進捗管理を行うにあたっては、学識経験者及び圏域の有識者等で構成する「ふくしま田園中枢都市圏ビジョン懇談会」からの意見を聴くものとします。



5. 構成市町村の概要

■福島市

福島市は、福島県の北部に位置する県都で、県内の政治・経済・文化・教育をけん引しています。また、全国有数の果物の産地としても有名で、各産業がバランスよく発展してきました。東京から東北新幹線で最短81分というアクセスの良さに加え、ＪＲ線や阿武隈急行線、福島交通飯坂線などの鉄道や東北自動車道と東北中央自動車道が交差する交通の結節点として、重要な位置にあります。



花見山と吾妻小富士の雪うさぎ

自然条件	福島県の北部に位置し、緑豊かな自然に恵まれた面積767km ² という広大な市域を有しています。中央部には信夫山があり、東方を阿武隈川が流れています。阿武隈高地・奥羽山脈等に囲まれた盆地で、気候は内陸性気候です。
産業・経済	農業は、果実を中心に、稲作、畑作など地域ごとに特色ある生産が営まれており、「魅力と活力にあふれ、次世代に向け持続成長する農業」を目指しています。工業は、積極的な企業誘致に努めるとともに、産学官の連携等により新たな産業創出の支援に努めています。
観光・文化	観光では、磐梯朝日国立公園等の豊かな自然と、飯坂・土湯・高湯等個性ある温泉郷を有し、それらを都市の持つ魅力と結びつけ、回遊性ある観光地づくりに努めています。文化では、連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった作曲家で名誉市民でもある古関裕而氏と音楽を活かしたまちづくりを推進するとともに、明治期の芝居小屋である旧広瀬座や縄文文化を体験できる国指定史跡であるじょーもぴあ宮畑の保存・活用に向けた取組を行うなど、文化振興に努めています。
伝統行事・伝統芸能	信夫三山暁まいり（2月）、福島わらじまつり（8月）、飯坂けんか祭り（10月）、岡山の水かけ祭り（10月）、大波の三匹獅子舞（10月）、金沢の羽山ごもり（12月）
特産品	さくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんご、米、きゅうり、ミニトマト、ほうれんそう、いちご、小菊、土湯こけし、凍み豆腐、いかにんじん、円盤餃子、ラジウムたまご

■二本松市

二本松市は、「智恵子妙」で詠われた安達太良山を西に仰ぎ、東の日山、羽山が連なる阿武隈高地まで、東西約36km、南北約17kmの市域を有し、その中央部を阿武隈川が南北に流れています。

かつて、奥州二本松藩十万七百石の城下町として栄えた風情を今に伝え、豊かな自然と四季折々の輝きが調和し、「二本松の菊人形」や「二本松の提灯祭り」、「木幡の幡祭り」などに代表される伝統と文化にあふれた魅力ある美しいまちとなっています。



箕輪門と少年隊群像

自然条件	福島県の中央北部に位置し、西に「智恵子抄」で詠われた安達太良山を擁し、中央の平坦部を阿武隈川が北流、東部には阿武隈山系が連なる風光明媚な自然環境に恵まれ、中心部の平均気温は12℃前後と比較的温暖で過ごしやすく、年間降水量も少なくなっています。
産業・経済	農業は、米を基幹作物として、野菜、畜産、果樹等を組み合わせた複合経営を行っています。商工業は、木工家具、菓子、酒造等の地場産業が盛んで、特に、近年は郊外型大型店舗の進出があります。また、産業集積の拠点として、長命工業団地を整備し、企業誘致を推進しています。
観光・文化	名峰「安達太良山」、阿武隈山系の信仰の山「日山」「羽山」をはじめ、天然記念物の「杉沢の大スギ」や「木幡の大スギ」、合戦場のしだれ桜、霞ヶ城公園、智恵子の生家、稚児舞台などの名勝地、岳温泉、名目津温泉、安達ヶ原ふるさと村、阿武隈川漕艇場等があります。
伝統行事・伝統芸能	万人子守地蔵尊例大祭（5月）、二本松の提灯祭り（10月）、小浜の紋付祭り（10月）、針道のあばれ山車（10月）、二本松の菊人形（10月～11月）、東和ロードレース大会（11月）、木幡の幡祭り（12月）
特産品	乳用牛、肉用牛、きゅうり、トマト、なす、にら、つるむらさき、椎茸、なめこ、りんご、スプレー菊、桑葉加工品、清酒、菓子、家具、仏壇・仏具、二本松万古焼、上川崎和紙、ワイン、シードル

■伊達市

伊達市は、平成18年1月に伊達町、梁川町、保原町、霊山町、月舘町の5町が合併して誕生した市です。安定した大地である信達盆地に位置し、東に国の史跡・名勝に指定されている霊峰「霊山」を、西に雄大な吾妻の峰々を日々仰ぎ見る自然に恵まれ、もも、ぶどう、りんご、あんぽ柿や、きゅうり、いちご、にらなどの農作物が盛んで全国でも有数の産地です。戦国大名伊達氏発展の地、南北朝時代の武将北畠顕家ゆかりの地などの歴史を持ち、市内には今も伊達氏の風情漂う史跡が残されています。



梁川城跡に残る庭園

自然条件	福島県の北部に位置し、東に阿武隈山系の霊山、西に吾妻連峰、北方には宮城県境の山々が遠望できる信達盆地の中にあります。市の西部を阿武隈川が流れ、中心部周辺は平坦地となっており、砂質土壌で耕地に適しています。
産業・経済	果樹、野菜、米を中心とした農業や小売業・卸売業及び情報通信機器、電子機器を中心とした産業が盛んです。さらに、新たに整備する工業団地への積極的な企業誘致を図っています。
観光・文化	東北の秀峰として名高い霊山は、国の史跡・名勝に指定され、市のシンボルとなっています。山中にはハイキングコースが整備され、太平洋を望む大パノラマと気軽なトレッキングコースを楽しむことができます。また、戦国大名へと成長を遂げた伊達氏が、室町時代から戦国時代に本拠とした梁川城跡や梁川八幡神社など伊達氏に関わる豊かな歴史が残されています。
伝統行事・伝統芸能	つつこ引き祭り（3月）、愛宕神社例大祭（4月）、霊山神社例大祭（4月）、伊達ももの里マラソン大会（8月）、三浦弥平杯ロードレース大会（10月）
特産品	もも、ぶどう、りんご、あんぽ柿、きゅうり、いちご、にら、しゅんぎく、えんどう類、トマト、ニット、天蚕製品、イノシシ革製品、入金真綿

■本宮市

本宮市は、平成１９年１月１日に本宮町と白沢村が合併して誕生しました。秀峰安達太良山を背景に、市の中心を豊かな阿武隈川が流れ、奥州街道の宿場町の面影をしのばせる街並みとともに、対岸には阿武隈山系の裾野に展開する田園と丘陵地が、豊かな景観を織りなしています。福島県のほぼ中央に位置しており、東北自動車道・本宮インターチェンジを有し、磐越自動車道と交差する郡山ジャンクションに最も近接していることから交通の要衝として、また「福島へのそのまち」として栄えています。



プリンス・ウィリアムズ・パーク英国庭園

自然条件	福島県の中央部に位置し、市のほぼ中央部には阿武隈川が北流し、東部には阿武隈山系の岩角山、高松山、岳山などの山並みや丘陵地・農地が広がり、西部には安達太良山から連なる大名倉山を中心とした山並みを有し、水と緑の豊かな自然に恵まれています。総面積は８８．０２㎢です。
産業・経済	阿武隈川流域の肥沃な土地条件や高速交通網が結節する交通の要衝としての優れた立地条件等を最大限に活用し、農業・商業・工業の振興を柱に、農産物の地産地消や企業誘致による雇用の場の創出等活力ある産業のまちづくりを推進しています。
観光・文化	国の登録文化財「蛇の鼻御殿」がある「花と歴史の郷蛇の鼻」や「岩角山」を中心とした観光コースは人気が高く、市内外を問わず多くの人々が訪れています。また、市内には、みずいろ公園やプリンス・ウィリアムズ・パーク、英国庭園、白沢ふれあい文化ホールがあり、多くの人たちで賑わっています。
伝統行事・伝統芸能	岩角山大梵天祭（１月）、八ッ田内七福神舞（１月）、本宮市夏まつり（８月）、もとみや秋祭り（１０月）、しらさわ秋祭り（１１月）、高松山観音寺初寅祭（旧暦の初寅の日の夜）、荒井の太々神楽（大晦日から元旦暁）
特産品	米、本宮烏骨鶏、きゅうり、チェリートマト、アスパラガス、とろろ芋、椎茸、ぎんなん、大核無柿（おおたねなしがき）、りんご、ビール、手作り糴みそ、本格長芋焼酎「さわうらら」、しらさわ宝漬、清酒

■桑折町

桑折町は、奥州街道と羽州街道が交わる要所として栄え、旧伊達郡役所や伊達氏の桑折西山城跡など多くの歴史的資源や、沼の湖面・桜・紅葉が織りなす景色が美しい半田山自然公園など豊かな自然を有しています。また、果物の生産が盛んな地域でもあり、福島県内でも特に高品質なももを提供することで知られ、20年以上連続で皇室・宮家への献上桃として指定を受けていることから、「献上桃の郷」と呼ばれています。

現在、東北自動車道と東北中央自動車道の結節点である桑折ジャンクションを有する現代版「追分」として、高い注目を集めるとともに周辺開発への期待が高まっています。



こおり桃源郷

自然条件	福島市から13km、町の西北部一帯は半田山等の山岳地帯であり、町の中央部は信達盆地より一段高く丘陵地帯となっています。中央に産ヶ沢川、東南には阿武隈川が南から東へと迂回して流れており、平坦地は、沖積層で地味肥沃です。
産業・経済	農業は、稲作ともも、りんごを主体とした果樹産地として活況を呈し、近年は、施設野菜の栽培も増加しています。中でも、ももは特に上質で、品種「あかつき」は、平成6年から連続で県の皇室献上品として選ばれています。工業は、自動車部品製造業、食品加工、紙加工、電気、精密機械加工の企業がありますが、既存企業の育成はもとより、さらなる企業誘致に向け取組を進めています。
観光・文化	ハートレイク半田沼を一望しながら森林浴を楽しめる半田山自然公園、桃源郷のように一面に咲き誇る春の桃の花、幻想的な光を放ち乱舞する初夏のゲンジボタル、清流産ヶ沢川の河畔にたたずむ美肌の湯うぶかの郷や、明治16年に建築し擬洋風官営建築の優品として国の重要文化財指定の旧伊達郡役所、仙台伊達藩の繁栄につながり、全国に残る山城の中でも歴史的遺産としての価値が高い国指定史跡「桑折西山城跡」、明治時代の寵児・五代友厚が経営に携わった日本三大銀山の一つである半田銀山跡などがあり、豊かな自然と多彩な歴史・文化を感じることができます。
伝統行事・伝統芸能	堰東京都祇園囃子、諏訪神社例大祭
特産品	米、きゅうり、アスパラガス、いちご、もも、りんご、ぶどう、あんぽ柿、純米吟醸酒「辛口桑折」、至福の桃ソルベ、至福の桃グミ、桃ふく（大福）、至福の桃飲むこんにやくゼリー、味噌、醤油、香村こけし、伊達焼

■国見町

国見町は、宮城県仙南地域、山形県村山・置賜地域、福島県県北地域の真ん中に位置することから、古来より交通の要衝として、奥州街道・羽州街道と宿駅が整備され、現在もＪＲ東北本線（藤田駅・貝田駅）・東北自動車道（国見インターチェンジ・国見サービスエリア）・国道４号が南北に縦断し、交通の便に恵まれています。また、東に阿武隈川、北西部に奥羽山脈、南東部に信達盆地が広がる四季折々の豊かな自然のもと、コシヒカリとくだものの里として、ももやあんぽ柿を主力とした農業が盛んな町です。

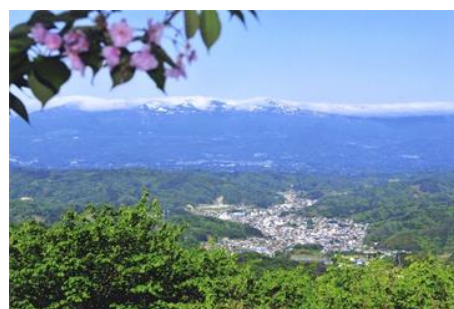


桃の花とシンボルの阿津賀志山

自然条件	北は宮城県白石市と接しており、東は阿武隈川を挟んで伊達市、南は桑折町と隣接し、信達盆地の肥沃な土地に恵まれた町です。年平均気温は約１４℃で比較的寒暖の差がある内陸性気候です。
産業・経済	果樹、米等を主な作物とする農業を中心とした町であり、優れた農業・経営技術を研修できる「くにみ農業ビジネス訓練所」が運営されています。また、恵まれた交通の便を生かし製造業を中心とした企業誘致を図る一方、若い子育て世代向けに定住促進住宅を整備し、人口の定住化と農商工一体の調和ある発展を目標としています。
観光・文化	阿津賀志山防塁（国指定史跡）は、文治５年（１１８９年）藤原泰衡が源頼朝の奥州征伐に対して築いた堀と土塁からなる防御施設です。下二重堀地区には、中尊寺ハスの蓮池が広がる「あつかし千年公園」があり、古戦場を彩っています。９月２３日（くにみの日）には毎年「義経まつり」が開催されます。また、国道４号沿いには道の駅国見あつかしの郷があり、情報発信・交流連携の拠点として賑わっています。
伝統行事・伝統芸能	内谷春日神社太々神楽（４月）、観月台公園内で農業市（５月）、くにみ夏まつり（８月）、義経まつり（９月）、鹿島神社例大祭（１０月）明日へ。ビックツリー・イルミネーション（１１月～１月）
特産品	米、もも、りんご、さくらんぼ、プラム、蜂屋柿（あんぽ柿、生柿）

■川俣町

川俣町は、阿武隈の美しい緑に包まれた町であり、平安時代から始まった養蚕業・絹織物業により「絹の里」として知られ、養蚕を伝え広めたとされる小手姫伝説が残っています。近年は、絹織物業に代わって、自動車部品・電子部品製造などの工場が立地し、産業構造の変化が進んでいます。また、米や野菜、花き、畜産も活発で、川俣シルク、川俣シャモ、コスキン・エン・ハポンなど川俣ならではの歴史、文化や特産品に溢れています。



峠の森から見た市街地

自然条件	阿武隈高地西斜面の丘陵地帯にあり、伊達郡南部に位置し、西は福島市、北は伊達市に接し、福島市の東南約20km、県都周辺の主要な地区拠点として存立しています。気候は比較的温暖で積雪量も少なく、降雨量も県平均なみで気象的に恵まれています。
産業・経済	本町は、古くから絹織物・羽二重の輸出産地として栄え、織物業は県内生産高の大半を占め町産業の中核をなしてきました。近年は、縫製、電気、機械など各種の事務所に加え、震災後に立地した植物苗の製造工場や先端IoT企業など幅広い業種の事業所が誘致・設立され、社会経済の進展や地域の発展に調和した工業振興が推進されています。
観光・文化	絹のまち川俣の歴史を伝える「織物展示館」や織物体験・染物体験ができる「からりこ館」、樹齢500年を超える巨木の「駒ザクラ」、廃校となった小学校を利用して作られた「羽山の森美術館」・「おじまふるさと交流館」があります。また、「コスキン・エン・ハポン」は、日本最大の中南米音楽祭であり、全国のフォルクローレ愛好家が集い、3昼夜にわたって演奏を繰り広げています。
伝統行事・伝統芸能	川俣シャモまつり（8月）、からりこフェスタ（8月）、春日神社祭礼（10月）、コスキン・エン・ハポン（10月）、絹市（10月）
特産品	川俣シャモ、きゅうり、チェリートマト、タラの芽、山木屋在来そば、トルコギキョウ、アンスリウム、カーネーション、小菊、絹製品（スカーフ、ネクタイ、ショーツ等）

■大玉村

大玉村は、昭和３０年の大山村、玉井村の合併によって誕生し、以来、郡山市や福島市に近接する住みよい田園地域として発展してきました。福島県中通り地方の中央に位置する面積７９．４４㎢の小さな村で、村の西北には標高１，７００ｍの安達太良山があり、そのなだらかな稜線を仰ぐ田園風景といぐねに囲まれた集落が村内各地で見られ、村のシンボリックな景観となっています。



安達太良山といぐねのある風景

自然条件	福島県中通り地方のほぼ中央にあり、郡山市、二本松市、本宮市と接し、県内主要都市である福島市と郡山市のほぼ中間に位置しています。年間平均気温１２℃、年間降雨量１，１００mmと自然条件に恵まれています。
産業・経済	本村の産業は農業が主体であり、約１，３００haの水田が整備され、基幹作物の米を中心に、畜産、そ菜等との複合経営を行っています。また、公害のない、生きがいのある職場となるような企業の誘致を図り、農工一体の活力ある村づくりを目指しています。
観光・文化	安達太良山麓に県民の森があり、年間延べ１０万人の観光客が訪れる県民いこいの場となっています。県民の森に接して公設民営の温泉宿泊施設「アットホームおおたま」があり、この施設を中心に多くのレクリエーション施設もあります。また、貴重な遺産を保存展示するふるさとホールがあります。
伝統行事・伝統芸能	神原田神社十二神楽（４月、１０月）、遠藤ヶ滝不動尊祭礼（５月、９月）、本揃の田植踊
特産品	米、酵母牛、そば、きゅうり、りんご、日本酒、焼酎

■飯舘村

飯舘村は、福島県浜通り地方の北部に位置し、緑豊かな自然に恵まれた面積230.13km²という広大な地域を有しています。東日本大震災から約十年の月日を経て、飯舘村は「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」に向かった新たな一步を踏み出しています。村は「真っ白なキャンバス」でもあります。「我がふるさと」として愛し、楽しみ、その喜びを共にする全国の「ふるさとの担い手」が「彩り」を加える可能性がある村です。



花塚山から見た飯舘地区の風景

自然条件	村の中央を流れる新田川とその支流、北部を流れる真野川とその支流に沿って農地が広がり、美しい田園風景が一望できる亜高原地帯です。標高220～600mに位置し夏は涼しく、冬は降雪が少なく、数年に一度訪れる氷点下20℃の朝にはダイヤモンドダストをみることもできる村です。
産業・経済	現在村では、農地中間管理事業を活用した農地の無償貸与など先駆的な取組を進め、水稻、飼料作物、ソバなどの土地利用型作物による高収益・大規模農業を推進しています。また、意欲高い若手新規就農者などによるアルストロメリアなどの花き栽培、行者ニンニク・葉わさびなど（以下「特産品」参照）の特徴ある作物の栽培が進んでいます。さらに30～40代の若手畜産農家が中心となって、「飯舘牛」の再生・新生に向けた良質な黒毛和牛の繁殖・肥育に励んでいます。 また、新たな「なりわい」創生の一貫として、村を含む浜通りをはじめ県内全域の「里山の再生」につながる「木質バイオマス発電事業」を進めています。
観光・文化	「道の駅までい館」は花をシンボルにした復興拠点として建てられました。令和2年には「ふかや風の子ひろば」がオープンし、村の賑わいづくりに貢献しています。
伝統行事・伝統芸能	田植え踊り、三匹獅子舞
特産品	米、和牛、そば、インゲン、アスパラガス、行者ニンニク、かぼちゃ、高原野菜、葉わさび、えごま、なたね、ブルーベリー、トルコギキョウ、リンドウ、宿根カスミソウ、スターチス、アルストロメリア、なつはぜ、おこし酒、大吟醸飯舘、そば焼酎「山中郷」、どぶろく（特区）、御影石

第二章 連携中枢都市圏の将来像

1. 圏域の現状と主な課題

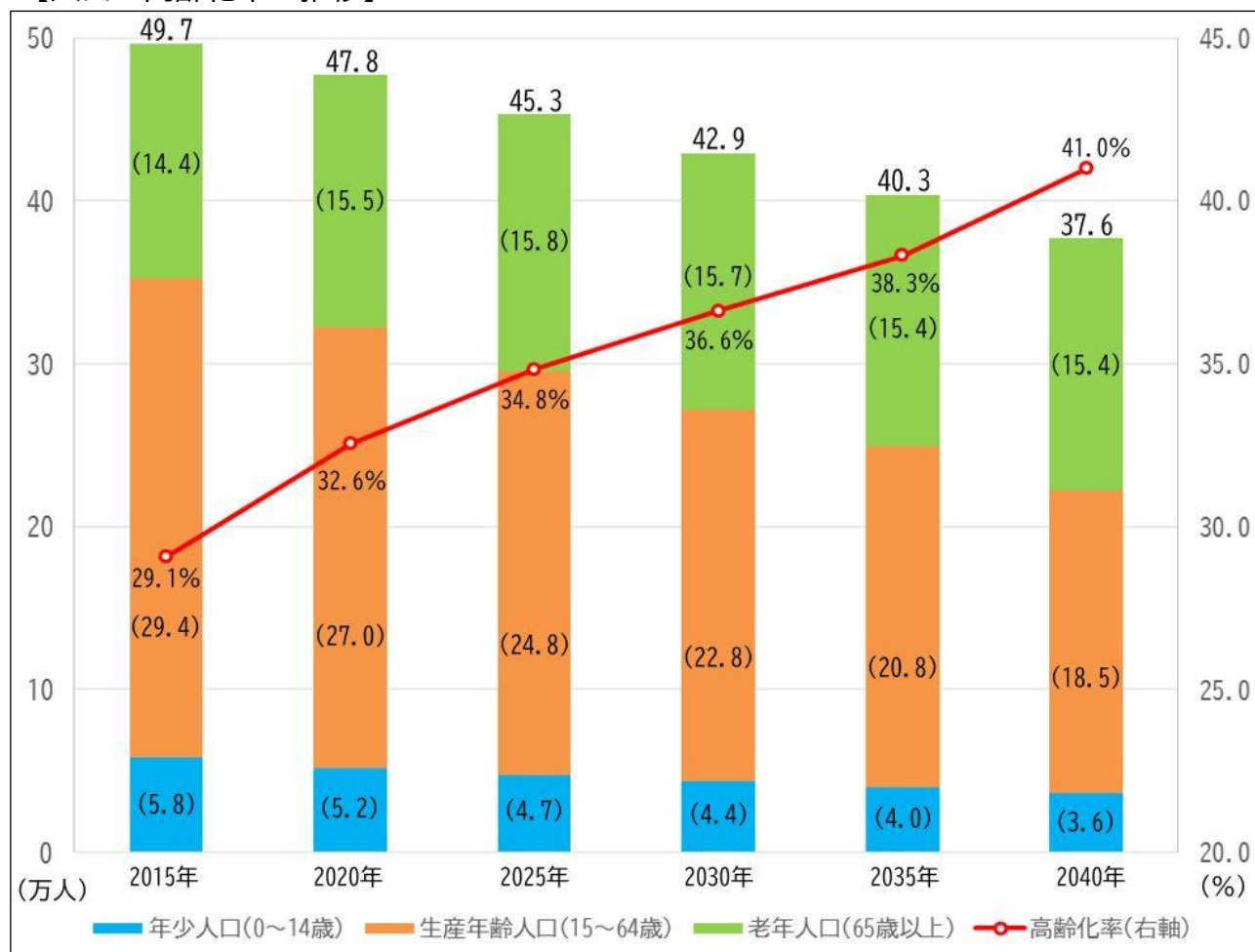
(1) 人口減少・少子高齢化の進展

本圏域の人口は、各市町村の人口ビジョンによると、平成27年（2015年）の国勢調査等で約49万7千人でしたが、今後も人口減少が続くことが予想され、令和22年（2040年）には約37万6千人、平成27年（2015年）比で約24%の減少となると推計しています。

年齢3区分別人口は、年少人口と生産年齢人口は減少傾向にあります。一方で、老年人口の増加が続いており、今後も高齢化率が上昇することが見込まれ、平成27年（2015年）が29.1%であるのに対し、令和22年（2040年）には41.0%で11.9ポイントの増加となる見込みです。

また、東日本大震災及び原子力災害の影響等により、出生数の減少（自然減）に加え、大都市への若年層（20歳～29歳）の人口流出（社会減）が続いており、特に若年層の女性人口が減少していることから、人口減少・少子高齢化が一層進行することが見込まれます。

【人口・高齢化率の推移】



資料：各市町村人口ビジョン

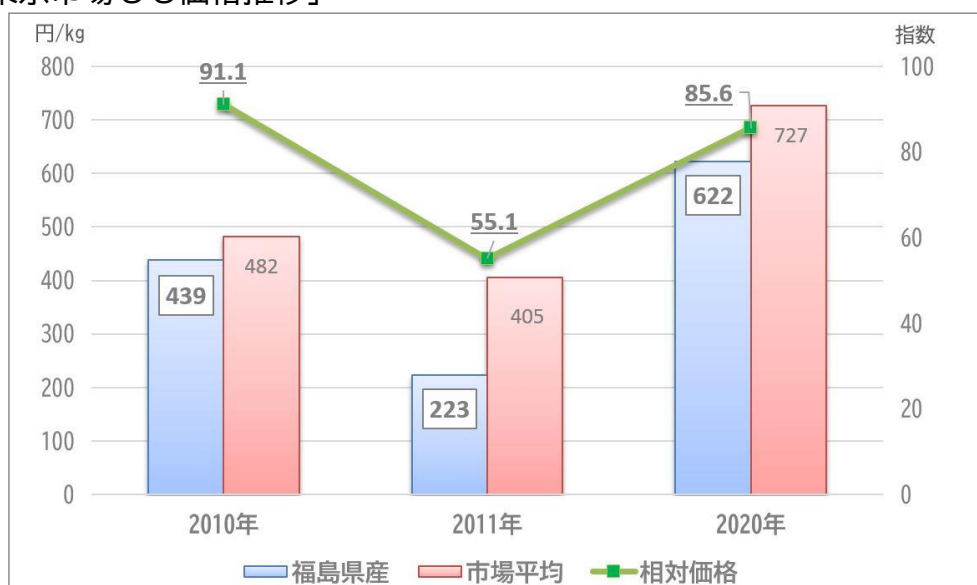
（２）原子力災害による根強い風評被害

本圏域の各市町村においては、東日本大震災と原発事故以降、住民の安心安全の確保を図るため、国・県事業を活用しながら、主体的に様々な復興事業に取り組んできました。

本圏域の復興は着実に進展しているものの、いまだ道半ばです。福島県産農林水産物の平均価格は、全国平均価格といまだ乖離があるなど、風評被害は根強く残っています。

今後も、放射線に関する正確な情報発信や重点消費地におけるトップセールス・メディアPRの展開等により風評払拭に取り組む必要があります。

〔東京市場もも価格推移〕



資料：東京都中央卸売市場ホームページ「市場統計情報（年報）」

〔米の相対取引価格〕



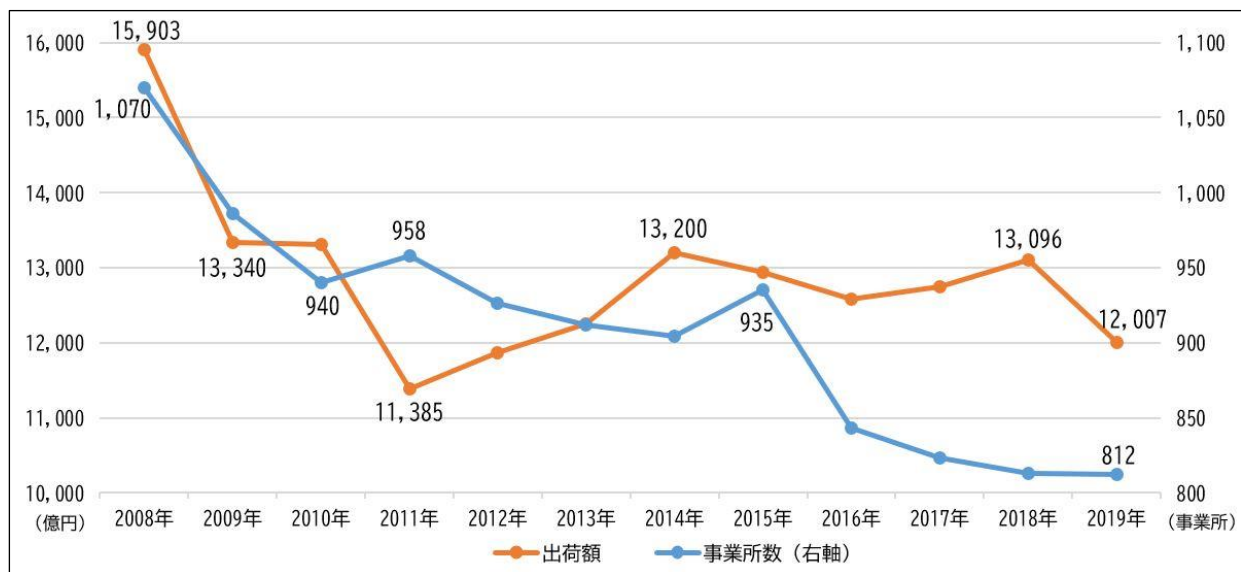
資料：農林水産省「米の相対取引価格」に基づく推計値（2020年は速報値）

（３）経済のグローバル化に伴う産業構造の変化

経済のグローバル化が一層進展し、企業の国際競争が厳しさを増す中、本圏域の製造業の事業所数は年々減少しています。また、製造品出荷額は２００８年のリーマンショックの影響で大幅に減少したものの、その後、徐々に持ち直し傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症という新たな危機に直面しました。

世界的な産業構造の変化と新型コロナウイルス感染症などに対応し、持続可能な産業基盤を構築するため、産学官民が一体となり、本圏域の強みである高速交通網の利便性の高さと充実した高等教育機関を生かして、福島イノベーション・コースト構想との連携を推進するとともに、新規創業等を支援するなど、活力あふれる産業の振興に取り組む必要があります。

【事業所（製造業）数と製造品出荷額の推移】



【事業所（製造業）数の推移】

市町村	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
福島市	428	386	365	391	368	372	364	384	336	327	324	323
二本松市	196	177	168	190	172	165	159	181	154	148	145	145
伊達市	178	165	155	148	150	145	143	135	132	131	133	137
本宮市	103	99	98	102	104	97	102	97	90	90	85	82
桑折町	41	38	38	37	36	37	38	35	36	34	33	32
国見町	25	24	23	19	23	20	21	21	19	19	20	21
川俣町	65	60	57	49	51	50	52	55	50	47	46	47
大玉村	24	25	23	22	22	23	22	20	22	22	22	20
飯館村	10	12	13			3	3	7	4	5	5	5
圏域計	1,070	986	940	958	926	912	904	935	843	823	813	812

【製造品出荷額の推移】

(単位：億円)

市町村	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
福島市	7,945	6,710	6,382	6,019	6,117	6,177	6,372	6,365	5,651	5,717	5,637	4,768
二本松市	1,837	1,244	1,470	1,370	1,415	1,259	1,463	1,554	1,645	1,845	1,975	1,938
伊達市	2,215	1,851	1,692	1,440	1,377	1,350	1,660	1,462	1,559	1,625	1,696	1,821
本宮市	2,650	2,497	2,607	1,476	1,944	2,332	2,495	2,431	2,543	2,439	2,630	2,349
桑折町	529	463	519	538	406	581	595	643	642	542	529	521
国見町	137	121	110	70	126	104	110	129	114	117	120	120
川俣町	395	314	384	353	340	318	349	216	289	307	317	313
大玉村	135	89	102	118	145	109	131	111	100	122	146	134
飯館村	61	51	44			22	26	30	36	36	45	44
圏域計	15,903	13,340	13,310	11,385	11,870	12,252	13,200	12,942	12,580	12,751	13,096	12,007

※東日本大震災の影響により飯館村は2011年、2012年の調査対象となっていない

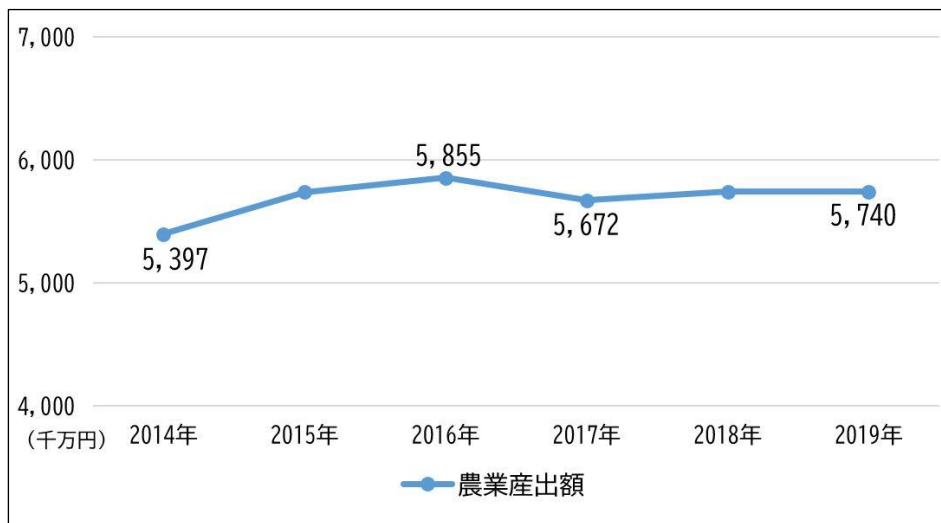
資料：RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

（４）農業の担い手の確保・育成と農業経営基盤の強化

本圏域の基幹産業である農業の産出額は、横ばい傾向で推移しているものの、農家数の減少、農業者の高齢化の進展、担い手不足等の課題があります。

しかし、圏域全体で見れば、自然と地域の特性を生かした多彩な品目が揃う全国有数の農業圏域であることから、農業関係機関や福島大学食農学類との連携により、圏域産農産物の消費拡大を図るとともに、ブランド化や６次産業化等を推進し、活力あふれる農業の振興に取り組む必要があります。

【農業産出額の推移】

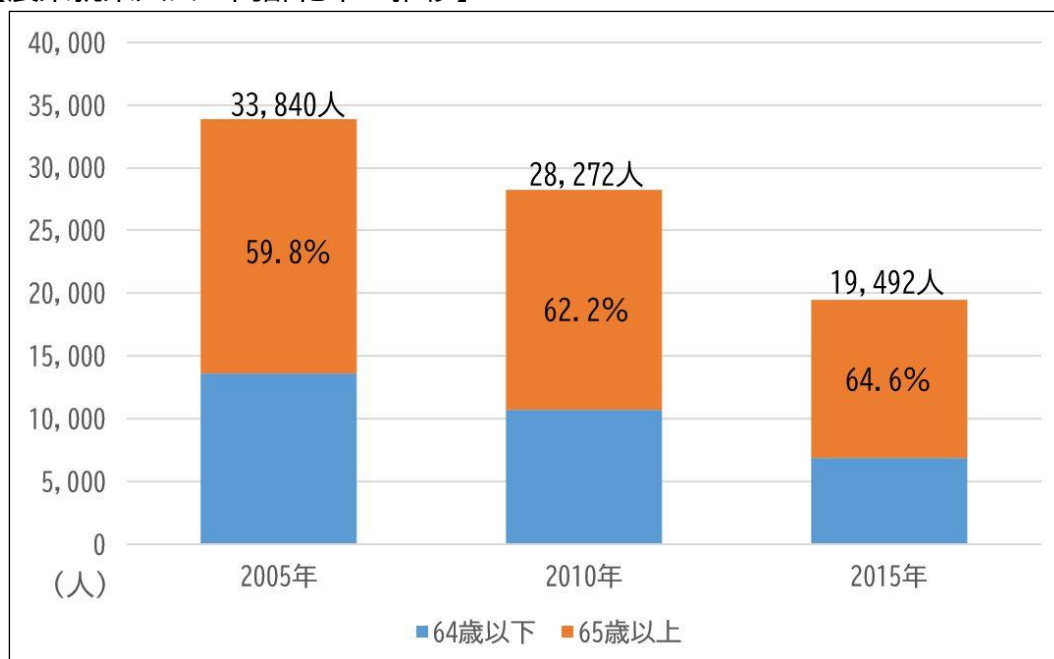


(単位：千円)

市町村	農業産出額					
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
福島市	1,713	1,814	1,841	1,712	1,741	1,783
二本松市	869	935	962	939	981	961
伊達市	1,743	1,837	1,839	1,818	1,821	1,626
本宮市	235	251	270	272	275	236
桑折町	256	270	284	279	280	304
国見町	345	370	378	372	354	338
川俣町	78	84	88	84	85	189
大玉村	158	177	193	195	202	289
飯舘村	0	0	0	1	3	14
圏域計	5,397	5,738	5,855	5,672	5,742	5,740

資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

【農業就業人口と高齢化率の推移】



※高齢化率：農業就業人口に占める 65 歳以上の割合

(単位 農業就業人口：人 高齢化率：%)

市町村	農業就業人口			高齢化率		
	2005年	2010年	2015年	2005年	2010年	2015年
福島市	10,344	8,992	6,701	58.7	61.8	62.9
二本松市	6,610	5,999	3,825	61.7	60.9	66.3
伊達市	7,227	5,677	4,267	59.3	62.4	63.9
本宮市	2,497	2,087	1,483	63.5	66.7	64.3
桑折町	1,394	1,227	889	59.8	64.4	70.9
国見町	1,533	1,177	966	57.1	64.7	66.3
川俣町	1,374	1,037	460	60.8	63.7	70.2
大玉村	1,395	940	901	60.1	65.0	63.2
飯舘村	1,466	1,136	0	56.5	55.6	-
圏域計	33,840	28,272	19,492	59.8	62.2	64.6

資料：農林水産省「農林業センサス」

(5) 高度な中心拠点の整備

圏域の中心都市である福島市の中心市街地においては、大型商業施設や小売店舗の閉店などによる空洞化が進んでいることから、圏域全体に経済効果等を波及させる高次の都市機能の集積・強化に向けて、福島駅東口地区市街地再開発と交流・集客拠点施設の整備を進めています。

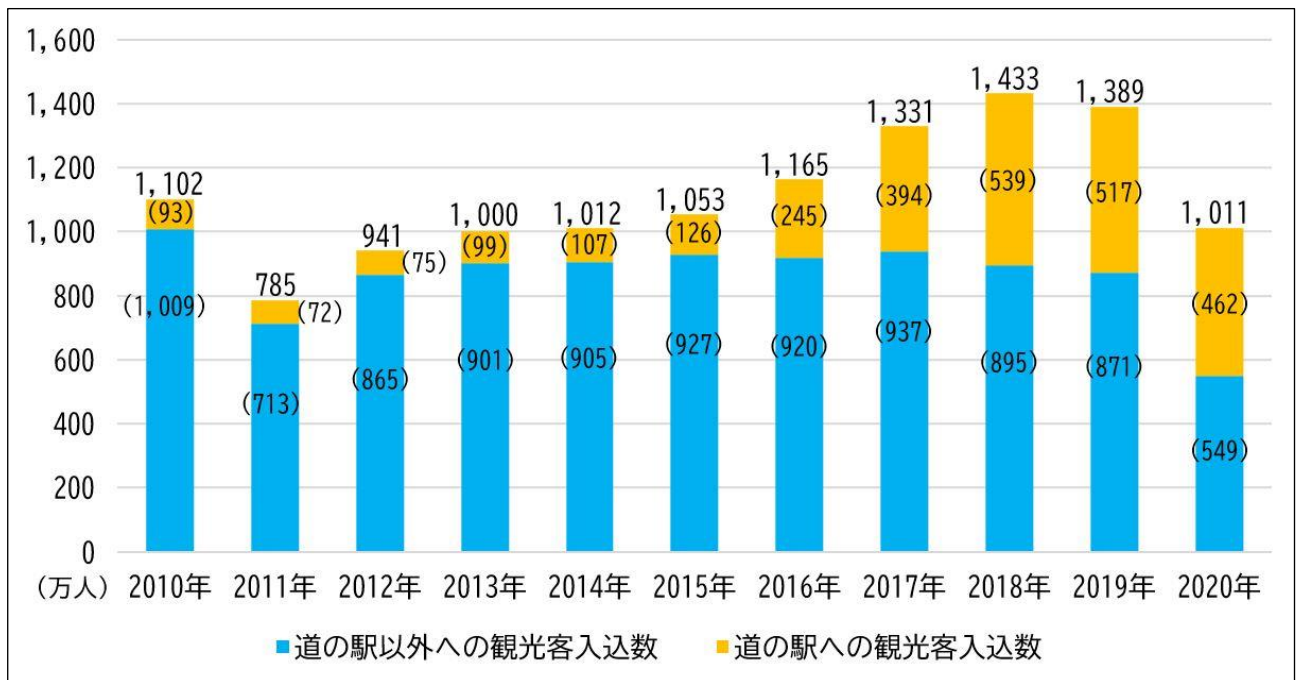
また、今後開業する大型商業施設も含めて圏域内に点在する大型商業施設等との連携による圏域経済と交流の活性化に取り組む必要があります。

(6) インバウンドも含めた観光客の獲得

本圏域における観光客入込数は、東日本大震災と原子力災害の影響で7割程度に落ち込みました。その後、徐々に回復し、2016年には震災前を上回る観光客入込数となるなど、おおむね右肩上がり推移してきましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で、再び大きく落ち込みました。

今後、本圏域の豊かな自然や多様な歴史・文化、温泉等の魅力ある観光資源を生かし、インバウンドも含めた観光客獲得や受入態勢整備の取組が必要です。

【観光客入込数の推移】



(単位：人)

市町村	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
福島市	6,616,609	5,482,055	6,272,214	6,513,927	6,353,129	6,411,657	6,330,452	6,553,071	6,049,311	6,022,318	3,908,824
二本松市	2,750,543	1,528,166	2,105,184	2,278,020	2,371,870	2,699,233	3,834,798	3,765,943	3,735,410	3,699,840	2,595,967
伊達市	633,805	364,922	434,139	513,907	611,566	648,502	713,985	680,091	2,027,569	1,924,361	1,705,494
本宮市	252,359	107,166	126,853	161,299	165,317	181,913	190,775	176,473	194,368	140,021	43,632
桑折町	96,959	39,317	69,391	71,242	120,226	89,587	99,198	87,287	123,466	92,753	79,091
国見町	0	-	8,000	30,000	67,000	72,000	75,000	1,454,000	1,711,000	1,576,000	1,372,500
川俣町	311,360	268,652	295,298	322,833	321,560	313,458	289,302	298,812	271,461	231,989	225,638
大玉村	261,125	59,988	94,855	105,681	110,367	114,028	113,394	117,952	105,838	96,412	68,378
飯舘村	96,176	-	-	-	-	-	-	173,473	115,733	104,210	109,490
圏域	11,018,936	7,850,266	9,405,934	9,996,909	10,121,035	10,530,378	11,646,904	13,307,102	14,334,156	13,887,904	10,109,014

資料：各市町村

※2013年 道の駅「安達（下り線）」開業

2017年 道の駅「国見あつかしの郷」、「いいたて村の道の駅までい館」開業

2018年 道の駅「伊達の郷りょうぜん」開業

※国見町の2010年は対象となるイベントが雨天で中止となったため0人

〃 2011年は東日本大震災の影響で対象となる事業がなかったため数値なし

※飯舘村の2011～2016年は東日本大震災で避難指示区域となっていたため観光客なし

（７）自然災害激甚化への対応

近年、全国各地において地震や台風などによる大規模な自然災害が頻発しています。また、災害発生時に避難所を開設する際、新型コロナウイルスなどへの新たな感染症対策を講じるなど、複合的な対応が求められています。

災害時に圏域市町村が相互に支援し合い、必要な場所に必要な人員、物資を迅速に届けることができるよう応援体制をさらに強化するなど、激甚化・頻発化している自然災害に迅速かつ的確に対応できる安心安全な圏域をつくる必要があります。

（８）地球温暖化防止と気候変動対策に対する意識の高まり

近年、地球温暖化に起因する気温の上昇、大雨の増加、農作物の品質低下など、気候変動とその影響が世界規模で顕著となっており、環境省においても「気候危機」を宣言するなど、今後、影響がますます拡大することが懸念されます。

本圏域が有する豊かな自然環境を次世代に継承していくためには、原子力災害を受けた「福島」の名を有する圏域として、地球規模の課題にも積極的に挑戦する視点を持ち、自然環境や景観等に配慮しながら、地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入や水素の利活用などゼロカーボンに向けた取組と気候変動適応策を推進する必要があります。

（９）地域公共交通の確保

超高齢社会の進展や地球環境に対する意識が高まる中で、バス、鉄道等の地域公共交通は、重要な移動手段としてその維持・確保が求められており、広域生活路線バス等の運行支援のほか、各市町村がそれぞれに地域のニーズに応じたコミュニティバスやデマンドタクシーの運行など工夫を凝らした取組を進めています。

今後も、住民の移動手段の確保や利便性の向上、温室効果ガスの削減に向け、圏域内における地域公共交通の相互連携や利用促進を図るための施策を講じる必要があります。

（１０）効率的で質の高い行財政経営

人口減少社会と高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の影響により、行政需要は多様化、細分化するとともに、税収減など財政状況が厳しくなることが懸念されます。

今後は、老朽化した公共施設の更新時期が集中する時期を迎えます。現在の規模等のまま公共施設を維持していくことは極めて困難であることから、圏域内の公共施設の相互利用等を進めていくなど、効率的な行財政経営を推進する必要があります。

また、デジタル化の進展や新型コロナウイルス感染症などの様々な課題や変化に対応するため、行政のデジタル化と圏域の各市町村職員の能力向上等に取り組み、質の高い行政サービスを提供する必要があります。

2. 圏域の強みや特長等

(1) 「福島」の名を冠する圏域
東日本大震災及び原子力災害によって「福島」という名は、大きな負のイメージとともに、国内はもとより全世界に知られることになりました。放射線に対する不安や農作物などの風評被害は根強く残っています。弱みである風評を払拭し、「福島」という名を「強み」に変え、復興創生に向けた様々なまちづくりを進めることができる圏域です。
(2) 交通・物流の要衝
圏域を南北に走る東北自動車道を軸として、令和3年4月には東北中央自動車道が開通するなど、交通・物流の要衝です。また、首都圏からのアクセスも良好で、中心都市である福島市・東京間は東北新幹線で最短81分と旅行や観光、グルメ、ビジネスシーンといったあらゆる場面で高いポテンシャルを持っている圏域です。さらには、これら高速交通網を生かし、浜通りで進められる福島イノベーション・コースト構想の玄関口として新たな役割が期待されています。
(3) 多彩な農産物
さくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんご、柿等の果物をはじめ、米、いちご、きゅうり、なす、トマト、にら等の野菜の生産が盛んです。また、小菊、トルコギキョウ等の花きや川俣シャモ、伊達鶏、飯舘村産牛肉、山菜など、恵まれた自然環境を生かした多彩な農畜産物等が生産されるとともに、米とおいしい水を活用した酒造なども盛んに行われており、全国有数の農業圏域です。
(4) 豊かな自然環境と豊富な観光資源
吾妻山、安達太良山、阿武隈高地の山並を背に一級河川阿武隈川が流れ、水田や果樹畑などで形成される田園風景など自然が豊かです。さらに、古関裕而氏による音楽文化や霞ヶ城、史跡伊達氏梁川遺跡群、史跡桑折西山城跡などの豊かな歴史、飯坂・土湯・高湯・岳の温泉郷、花見山や蛇の鼻御殿、二本松の菊人形など数多くの花の名所、磐梯吾妻スカイラインをはじめとした磐梯朝日国立公園、東北の秀峰霊山、さらには道の駅が圏域内に9カ所（うち1カ所は整備中）あるなど魅力ある観光資源が豊富です。
(5) 高等教育機関の集積
中心都市である福島市に4つの高等教育機関（大学、短期大学）が集積しています。平成31年4月に福島大学に食農学類が開設され、さらに令和3年4月には福島県立医科大学に保健科学部が開設されるなど、多分野にわたって地域課題の解決等に向けた産学官連携が図れる環境が整っています。
(6) 安心安全な医療体制
高度な医療に対応した2次3次救急医療機関が中心都市である福島市に集積する中、産業従業者数の全体に占める医療従事者の割合が、福島県や全国と比較して高い割合となっており、コロナ禍はもとより、今後の新たな感染症対策も含め、安心して医療を受けられる体制が整っています。

3. 圏域が目指す将来像と方向性及び連携施策

(1) 将来像

本圏域は、東京圏からのアクセスが良く、都市としての高い生活機能と利便性を持ちながら、豊かな自然と農村が織りなす田園を併せ持ち、温かみのある地域社会が形成された中で、ゆとりのある生活をおくることができる圏域であり、南東北の要の都市圏としてさらなる発展を目指していく必要があります。

また、東日本大震災及び原子力災害からの復興はまだ道半ばであり、県都福島市を有する圏域として、充実した高速交通網等を活用して復興創生をさらに推進し、本県の復興創生をけん引していかなければなりません。

今後、圏域市町村はさらに連携を深め、それぞれの持つ都市機能や強み、特長等を生かして「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に積極的に取り組み、圏域住民には「暮らしやすい、住み続けたい」と思ってもらうとともに、圏域外の人には「住んでみたい」と思ってもらえるような魅力あふれる都市圏を目指します。

このため、圏域が目指す概ね20年先の将来像を次のように定めます。

ポストコロナ時代に多様なライフスタイルを実現できる南東北の要
ふくしま田園中枢都市圏

【解説】

○ポストコロナ時代

コロナ禍で日々の活動が制約を受ける中、在宅でのテレワークやオンライン会議、オンライン授業等、デジタル技術を活用した生活を経験したことにより、「住む場所は働く場所の近くでなくても良い」、「豊かな自然環境の中で生活したい」等、地方での働き方や暮らし方に対する関心が高まっています。

また、コロナ禍を経験し、家族はもとより、他者への配慮や思いやり、地域とのつながりの大切さが再認識されたところです。

ここでは、こうした意識等の変化を踏まえ、東京圏や大都市圏の生活より心の豊かさやゆとりある生活等を求めて、働く場所、住む場所として「地方」が選ばれる可能性が高まっていく時代のことを指すものです。

○多様なライフスタイル

ここでは、仕事、結婚、子育て・教育、地域活動、ボランティア活動、新たな学びや趣味など多様性を持った暮らしを自らの価値観で選択できる生き方のことを指します。

○田園中枢都市圏

「自然豊かな郊外の住宅地」といったものではなく、ここでは、東京圏からのアクセスが良く、教育、医療・福祉、交通、大型商業施設、文化・スポーツ施設等、都市としての高い生活機能と利便性を持ちながら、豊かな自然と農村が織りなす田園を併せ持ち、温かみのある地域社会が形成された中で、ゆとりのある多様なライフスタイルを実現できる都市圏のことを指します。

(2) 方向性

本圏域の目指す将来像の実現に向け、都市圏ビジョンの計画期間である5年間（令和4年度～令和8年度）のまちづくりの方向性を国が連携中枢都市圏構想推進要綱で示す3つの分野に沿って次のとおり定めます。

① 圏域全体の経済成長と復興創生をけん引する

高速交通網の利便性の高さや高等教育機関の集積、多彩な農産物、豊富な観光資源等の強みや特長等を十分に生かし、産学金官民の様々な主体が連携しながら産業基盤の強化や風評払拭等を図るなど、圏域全体の経済成長と復興創生をけん引します。

② 圏域全体へ経済効果等を波及させる高次の都市機能を集積・強化する

本圏域はもとより、福島県全体の定住・交流の拠点となる福島駅東口地区市街地再開発と交流・集客拠点施設の整備や広域道路網の形成など、圏域全体へ経済効果等を波及させる高次の都市機能の集積・強化に取り組みます。

③ 暮らしやすい、住みたくなる魅力あふれる圏域をつくる

地域医療、福祉、子育て・教育環境、文化・スポーツ、災害対策、地域公共交通、公共施設の相互利用など圏域全体の生活関連機能の維持・向上を図り、豊かな自然環境の中で快適で安心・安全に暮らせる魅力あふれる圏域づくりに取り組みます。

(3) 連携施策

本圏域の目指す将来像の実現に向け、上記3つの方向性に基づき、圏域市町村が連携して取り組む施策を「連携施策」として位置づけ、積極的に推進します。

4. 圏域が目指す人口目標

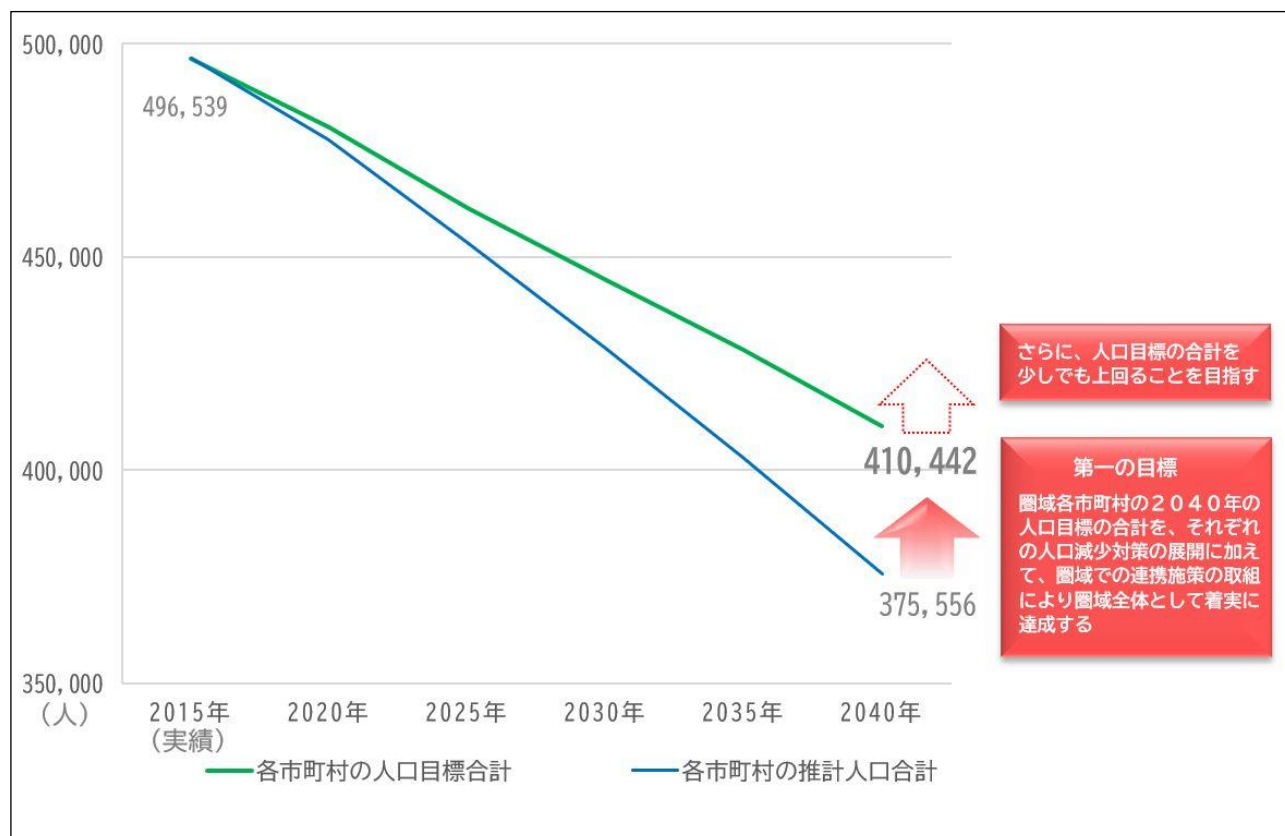
圏域の人口は、2015年の国勢調査時点で約49万7千人です。（12ページ参照）

国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠した圏域の推計人口は、2040年に約37万6千人、2015年比マイナス24.4%となります。

こうした中、圏域の2020年の国勢調査人口（確定値）は、各市町村の人口ビジョンにおける同年の推計人口の合計を下回っており、新型コロナウイルス感染症等の影響による出生数減少など、今後とも厳しい人口状況が続くと想定されます。

これらを踏まえ、圏域各市町村の2040年の人口目標の合計について、それぞれの人口減少対策の展開に加えて、圏域での連携施策の取組により圏域全体として着実に達成することを第一の目標とするとともに、少しでも上回ることを目指します。

【圏域人口目標】



【参考】

(単位：人)

No	市町村	人口ビジョン 推計人口 (2040年)	人口ビジョン等 人口目標 (2040年)
1	福島市	226,845	245,536
2	二本松市	42,103	45,761
3	伊達市	44,678	53,296
4	本宮市	26,482	26,482 上回る
5	桑折町	8,506	9,569
6	国見町	6,252	7,474
7	川俣町	8,847	8,847 上回る
8	大玉村	7,926	8,658
9	飯舘村	3,917	4,819
合計		375,556	410,442

5. 施策体系

目指す将来像

人口目標と同じ概ね
20年後の目指す姿

ポストコロナ時代に
多様なライフスタイルを実現できる
南東北の要 ふくしま田園中枢都市圏

<2040年人口目標>

第一の目標

- ・圏域各市町村の2040人口目標の合計を、それぞれの人口減少対策の展開に加えて、圏域での連携施策の取組により圏域全体として着実に達成する
- ・さらに、人口目標の合計を少しでも上回ることを目指す

方向性

国の連携中枢都市圏構想推進要綱
で示す3つの分野に沿った方向性

1
圏域全体の経済成長と復興創生をけん引する

2
圏域全体へ経済効果等を波及させる
高次の都市機能を集積・強化する

3
暮らしやすい 住みたくなる
魅力あふれる圏域をつくる

連携施策

本圏域の目指す将来像の実現に向け、
3つの方向性に基づき圏域市町村が連携して取り組む施策

- (1) 産学官民一体となった経済成長の推進
- (2) 風評を乗り越える質の高い農業と観光交流の推進
- (3) 活力ある商工業の振興
- (4) 高度な中心拠点の整備と広域的な活用
- (5) 広域道路網の形成
- (6) 地域医療の充実
- (7) 高齢者等福祉の充実
- (8) 子育て・教育環境の充実
- (9) 文化・スポーツの振興
- (10) 広域的な土地利用の推進
- (11) 強みや特長等を生かした地域の振興
- (12) 安心安全な災害対策の推進
- (13) ゼロカーボンの推進
- (14) 地域公共交通の充実
- (15) DXの推進
- (16) ポストコロナ時代のゆとりあるライフスタイルの形成
- (17) 雇用対策の充実
- (18) 圏域内公共施設等の相互利用の推進
- (19) 圏域内市町村職員の育成
- (20) 公営企業の広域連携の推進

第三章 連携協約に基づき推進する具体的取組

1. 具体的取組の体系

方向性・連携施策の区分		具体的取組名		掲載ページ	連携する市町村							
					二本松市	伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	大玉村	飯舘村
1 圏域全体の経済成長と復興創生をけん引する												
(1)	産学金官民一体となった経済成長の推進	1	福島イノベーション・コースト構想との連携	29	○	○	○	○	○	○	○	○
(2)	風評を乗り越える質の高い農業と観光交流の推進	2	6次産業化の推進	30	○	○	○	○	○	○	○	○
		3	広域観光の推進	31	○	○	○	○	○	○	○	○
(3)	活力ある商工業の振興	4	中小企業や新規創業者の支援	32	○	○	○	○	○	○	○	○
		5	圏域内インターチェンジ周辺等の土地利用の推進	33	○	○	○	○	○		○	○
2 圏域全体へ経済効果等を波及させる高次の都市機能を集積・強化する												
(4)	高度な中心拠点の整備と広域的な活用	6	市街地再開発事業の促進と交流・集客拠点施設の整備推進及び広域的な活用の検討	34	○	○	○	○	○	○	○	○
		7	圏域内大型商業施設等と連携した地域活性化策の検討	35	○	○	○	○	○	○	○	○
(5)	広域道路網の形成	8	圏域北部の道路ネットワークの整備促進	36		○		○	○			
3 暮らしやすい 住みたくなる 魅力あふれる圏域をつくる												
(6)	地域医療の充実	9	救急医療体制の確保	37	○	○	○	○	○	○	○	○
		10	産科体制の確保と産後ケアの充実に向けた検討	38	○	○	○	○	○	○	○	○
		11	健康づくり事業の広域展開の検討	39	○	○	○	○	○	○	○	○
(7)	高齢者等福祉の充実	12	地域包括ケアシステムの連携推進	40	○	○	○	○	○	○	○	○
		13	障がい者の社会参加促進	41	○	○	○	○	○	○	○	○
(8)	子育て・教育環境の充実	14	保育所等の広域入所	42	○	○	○	○	○	○	○	○
		15	ファミリーサポートセンター事業及び病児・病後児保育事業の広域利用の検討	43	○	○	○	○	○	○	○	○
		16	教職員の広域交流	44	○	○	○	○	○	○	○	○
		17	公立夜間中学校の入学支援	45	○	○	○	○	○	○	○	○

方向性・連携施策の区分			具体的取組名		掲載ページ	連携する市町村							
						二本松市	伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	大玉村	飯舘村
(9)	文化・スポーツの振興	18	スポーツ施設の広域利用による大規模な大会等の誘致	46	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(10)	広域的な土地利用の推進	19	圏域全体の土地利用のあり方の検討	47	○	○	○	○	○				
(11)	強みや特長等を生かした地域の振興	20	圏域産農産物の風評払拭・消費拡大	48	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		21	圏域産農産物の利用拡大の検討	49	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		22	有害鳥獣対策の強化	50	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		23	高等教育機関等への調査・研究の場の提供	51	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(12)	安心安全な災害対策の推進	24	災害対策の広域連携の推進	52	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(13)	ゼロカーボンの推進	25	再生可能エネルギーの導入推進と水素エネルギーの利用促進	53	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(14)	地域公共交通の充実	26	地域公共交通の確保と利用促進	54	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(15)	DXの推進	27	自治体情報システム等の運用に向けた情報交換	55	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		28	入札参加資格申請受付システム導入の検討	56	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		29	圏域内航空写真の合同撮影	57					○	○			○
(16)	ポストコロナ時代のゆとりあるライフスタイルの形成	30	出合いの場の創出	58	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		31	移住定住の促進	59	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(17)	雇用対策の充実	32	圏域内企業への若者の就職支援	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(18)	圏域内公共施設等の相互利用の推進	33	公共施設の相互利用の検討	61	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		34	災害廃棄物等処理の広域連携の推進	62	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(19)	圏域内市町村職員の育成	35	合同職員研修会等の開催	63	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(20)	公営企業の広域連携の推進	36	水道事業における広域連携の推進	64	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 具体的取組

<表の構成>

- (1) 事業費欄には、関係市町村の事業費合計額を記載しています。
- (2) 事業費は、本ビジョン策定時の見込額としています。
- (3) 事業費のうち、現時点で算出が困難なもの、また、現時点で事業費が想定されないもの等は「-」で記載しています。
- (4) 連携施策や具体的取組の進捗状況を定量的に測定するための指標として3つの方向性ごとに基本目標を、36の具体的取組ごとに重要業績評価指標（K P I）を設定しています。
- (5) 重要業績評価指標（K P I）は、実績がないなど基準値を設定できないものは「-」で記載しています。
- (6) 持続可能性の実現と多様性の尊重というSDGsの重要な理念は、圏域のまちづくりを進める上でも意識すべき重要な視点であると考えます。このため、本ビジョンにおいては各取組がSDGsの目標にどのように貢献するかを、17のアイコンを使用して明確にしています。
- (7) また、SDGsの普及啓発を図り、圏域内の多様な主体がSDGsに貢献するまちづくりに取り組んでいく機運を高めるため、連携中枢都市である福島市がSDGsの各目標に貢献するセミナーやシンポジウム等を圏域住民や企業等に拡げて開催します。
- (8) 記載内容は、関係市町村との協議の状況や事業の進捗等に応じて、重要業績評価指標（K P I）も含めて適宜、内容の見直しを行います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



方向性１ 圏域全体の経済成長と復興創生をけん引する

【基本目標】

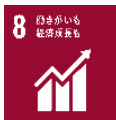
指標名	基準値	目標値
圏域内総生産額	1兆8,982億円 (平成30年度)	基準値より増加 (令和8年度)
圏域観光客入込数	1,011万人 (令和2年)	1,011万人 (基準値を維持) (令和8年) ※コロナ禍により令和3年の入込数が落ち込んでいる現状を踏まえた目標値とする。

□連携施策（１）産学金官民一体となった経済成長の推進

取組名	1	福島イノベーション・コースト構想との連携				SDGs 17の目標			
取組概要	医療・健康関連産業、ロボット・航空関連産業、農産物加工関連産業といった先端産業の本圏域への集積を図るため、福島イノベーション・コースト構想と圏域内企業、大学等との連携を促進する。 また、福島イノベーション・コースト構想立地企業と圏域内企業、大学等との連携を促進し、圏域内の経済産業を活性化させる圏域内発型産業の創出を支援する。					7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに  8 持続可能な 経済成長も  9 産業と技術革新の 基盤をつくろう  11 住み続けられる まちづくりを 			
関係市町村	全市町村								
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)				
	-	-	-	-	-				
国県補助等	-								
役割分担	連携中枢都市：中心となって福島イノベーション・コースト構想推進機構、企業、大学等との連絡調整等を行い、連携を促進する。 連携市町村：福島市と連携して本取組の実施に協力する。								
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。								
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考			
	先端産業の本圏域 への集積件数	—		5年間累計3件 (令和4年度 ～8年度)		—			

□連携施策（２）風評を乗り越える質の高い農業と観光交流の推進

取組名	2	6次産業化の推進				SDGs 17の目標	
取組概要	さくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんご、柿などの果物をはじめ、野菜や花きなど圏域内で生産される多彩な農産物を活用した商品開発や販路確保、人材育成等の支援を行う。 また、農業だけでなく商工団体や観光協会など様々な業種と連携して農家の収益を増やす取組について検討を行う。					2 目標をゼロに  8 持続可能な経済成長も  9 産業と技術革新の基盤をつくろう  13 気候変動に具体的な対策を 	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	150	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：具体的な連携事業について連携市町村と協議の上、実施する。 連携市町村：福島市と協議の上、実施する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、決定する。 連携市町村：福島市と協議の上、決定する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	圏域市町村主催 イベント出店 市町村数	4市町村 (令和4年度)	8市町村 (令和8年度)				

取組名	3	広域観光の推進				SDGs 17の目標	
取組概要	圏域の風評払拭、圏域への誘客拡大及び交流人口の増加を図り、地域経済の活性化につなげるため、 ・圏域の豊富な観光資源を活用した体験型・滞在型旅行商品の造成 ・高速交通網を活かして相馬市や米沢市等も含めた広域連携による誘客プロモーション、周遊促進事業 ・仙台圏等における圏域市町村合同の移住定住促進も含めた観光・物産イベント ・圏域の豊富な地域資源を活用した「ロケツーリズム」の推進 ・震災と原発事故の被災地の現状を知る「ホープツーリズム」等を活用した教育旅行の推進等に取り組む。						
							
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	16,572	16,815	17,513	17,513	17,513		
国県補助等	みらいを描く市町村等支援事業助成金、福島県観光復興推進委員会方部協議会補助金						
役割分担	連携中枢都市：具体的な連携事業について連携市町村と協議の上、実施する。 連携市町村：福島市と協議の上、実施する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、決定する。 連携市町村：福島市と協議の上、決定する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	圏域観光客入込数	1,011万人 (令和2年)	1,011万人 (基準値を維持) (令和8年)	※コロナ禍により令和3年の入込数が落ち込んでいる現状を踏まえた目標値とする。			

□連携施策（３）活力ある商工業の振興

取組名	4	中小企業や新規創業者の支援				SDGs 17の目標	
取組概要	既存事業から新たな分野に進出する圏域内中小企業者や若者、女性などチャレンジ意欲の高い新規創業者を支援する。					1貧困をなくそう  5ジェンダー平等を實現しよう  8働きがいも経済成長も  9産業と技術革新の基盤をつくろう 	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	800	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：具体的な連携事業について連携市町村と協議の上、実施する。 連携市町村：福島市と協議の上、実施する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、決定する。 連携市町村：福島市と協議の上、決定する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	創業塾受講者数	(令和2年度の創業塾受講者数) 79名	(令和8年度の創業塾受講者数) 235名				

取組名	5	圏域内インターチェンジ周辺等の土地利用の推進				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内インターチェンジ周辺等において、物流など地域の振興につながる土地の有効利用の検討やインフラ整備の促進等に圏域で連携して取り組む。					9産業と技術革新の基盤をつくろう 11住み続けられるまちづくりを
関係市町村	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、大玉村、飯舘村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討を行う。					
	連携市町村：福島市と連携して検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
	連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	土地利用の推進に関する検討会議の開催回数	—	毎年度1回	—		

方向性２ 圏域全体へ経済効果等を波及させる高次の都市機能を集積・強化する
【基本目標】

指標名	基準値	目標値
J R福島駅の乗降人数	5, 9 3 6千人 (令和元年度)	基準値より上昇 (令和8年度)

□連携施策（４）高度な中心拠点の整備と広域的な活用

取 組 名	6	市街地再開発事業の促進と交流・集客拠点施設整備事業の推進及び広域的な活用の検討				SDGs 17の目標
取 組 概 要	連携中枢都市である福島市の中心市街地において、福島駅東口地区市街地再開発事業により商業、宿泊、居住機能の強化等を図る。 また、交流・集客拠点施設整備事業により、コンベンション機能の強化等を図り、圏域における高度な中心拠点の形成を目指す。 さらに、整備後の圏域における広域的な活用について検討を行う。					8 働きがいも 経済成長も 9 産業と観光客の 幸せをつくる 11 住み続けられる まちづくりを
関係市町村	全市町村					
事 業 費 (千 円) ※R7.3 月 現 在	2 0 2 2 年 度 (R 4)	2 0 2 3 年 度 (R 5)	2 0 2 4 年 度 (R 6)	2 0 2 5 年 度 (R 7)	2 0 2 6 年 度 (R 8)	
	3,754,576	4,424,268	749,000	1,658,000	10,986,000	
国県補助等	社会資本整備総合交付金（国）、土木事業補助金（県）、福島市復興基金 等					
役 割 分 担	連携中枢都市：市街地再開発事業を実施する組合等を支援するとともに、交流・集客拠点施設整備を進める。また、関係市町村の中心となって広域的な活用について検討を行う。 連 携 市 町 村：福島市と連携して検討を行う。					
費 用 負 担	連携中枢都市：市街地再開発事業の実施に係る費用の一部を支援するとともに、交流・集客拠点施設整備事業に必要な費用を負担する。 連 携 市 町 村：－					
重 要 業 績 評 価 指 標 (K P I)	指標名	基準値	目標値	備考		
	交流・集客拠点施設整備の進捗状況	—	令和11年度開業	—		

取組名	7	圏域内大型商業施設等と連携した地域活性化策の検討				SDGs 17の目標
取組概要	現在圏域内に所在する大型商業施設等、又は、今後圏域内に整備される大型商業施設（イオンモール伊達）と連携した地域活性化策について検討を行う。					8 働きがいも経済成長も 9 産業と観光客両の基盤をつくる 11 住み続けられるまちづくりを
関係市町村	全市町村					
事業費 （千円）	2022年度 （R4）	2023年度 （R5）	2024年度 （R6）	2025年度 （R7）	2026年度 （R8）	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 （KPI）	指標名	基準値		目標値		備考
	地域活性化策に関する検討会議の開催回数	—		毎年度1回程度		—

□連携施策（５）広域道路網の形成

取組名	8	圏域北部の道路ネットワーク整備促進				SDGs 17の目標
取組概要	圏域北部の道路ネットワークの整備促進に向けた勉強会を国、県と連携し開催する。 また、関係市町村が連携して国及び県に対し要望活動を継続的に実施する。				 	
関係市町村	福島市、伊達市、桑折町、国見町					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって勉強会を開催する。また、連携市町村と連携して要望活動を行う。 連携市町村：福島市と連携して勉強会、要望活動を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	勉強会及び要望活動の回数	3回 (令和2年度)	毎年度4回	—		

方向性3 暮らしやすい 住みたくなる 魅力あふれる圏域をつくる

【基本目標】

指標名	基準値	目標値
人口の社会動態	△804人 (令和2年)	基準値より上昇 (令和8年)
出生数	2,814人 (令和2年)	基準値より上昇 (令和8年)

□連携施策（6）地域医療の充実

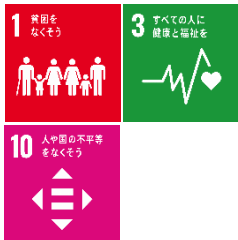
取組名	9	救急医療体制の確保				SDGs 17の目標
取組概要	各医師会等と連携し、福島市夜間急病診療所運営事業及び各休日在宅当番医制運営事業を実施し、圏域内における一次救急医療体制の充実を図る。 また、各病院群輪番制協議会等と連携し、救急医療病院群輪番制運営事業を実施し、圏域内における休日昼間及び夜間における二次救急医療体制の充実を図る。 さらに、圏域内での救急医療体制のあり方に対応した費用負担も含めて検討を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	636,102	626,609	614,080	614,080	614,080	
国県補助等	小児初期救急医療事業費補助金（県）、医療提供体制推進事業費補助金（県）等					
役割分担	連携中枢都市：連携市町村と連携して各事業に取り組む。また、中心となってさらなる救急医療体制の充実に向けた検討を行う。					
	連携市町村：福島市と連携して各事業に取り組む。また、福島市と連携して救急医療体制の充実に向けた検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要な費用を負担する。					
	連携市町村：福島市と協議の上、事業実施に必要な費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	二次救急医療体制を確保した日数	365日 (令和2年度)	基準値を維持 (令和8年度)	※これまで政策検討プロジェクト会議を開催		

取組名	10	産科体制の確保と産後ケアの充実に向けた検討				SDGs 17の目標	
取組概要	圏域における産科医の不足と福島市への偏在等に対応するため、福島県立医科大学との連携・協力を得ながら広域的な産科体制の確保と産後ケアの充実に向けた検討を行う。					3 すべての人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国は不平等をなくそう	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	-	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討を行う。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	圏域内の産科医・産婦人科医の人数	49名 (平成30年)	基準値以上 (令和8年度)	医師・歯科医師・薬剤師統計 ※これまで政策検討プロジェクト会議を開催			

取組名	1 1	健康づくり事業の広域展開の検討				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内各市町村が実施している健康づくりに関する事業の相互相乗など、広域展開に向けた検討を行う。 ・減塩PR活動の広域展開					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R 4)	2023年度 (R 5)	2024年度 (R 6)	2025年度 (R 7)	2026年度 (R 8)	
	-	-	334	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：福島市の健康づくりに関する事業を実施するとともに、関係市町村の中心となって各市町村の事業の広域展開に関する検討、調整を行う。 連携市町村：各市町村の健康づくりに関する事業を実施するとともに、福島市と連携して広域展開に関する検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：福島市の事業実施にかかる費用を負担する。 連携市町村：各市町村の事業実施にかかる費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考
	平均自立期間	男性 79.1 歳 女性 84.5 歳 (令和3年度)		基準値の延伸 (令和8年度)		※国保データベースより二次医療圏・飯舘村の数値から独自算定

□連携施策（７）高齢者等福祉の充実

取組名	1 2	地域包括ケアシステムの連携推進				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内の地域包括支援センター職員等を対象とした合同研修会等を開催し、センター間の情報交換と連携強化を図る。また、連携して認知症高齢者等QRコード活用見守り事業を展開するほか、認知症高齢者等とその家族の安心安全につながる取組について検討を行う。					3すべての人に健康と福祉を 10人や国の不平等をなくそう 16平和と公正をすべての人に
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R 4)	2023年度 (R 5)	2024年度 (R 6)	2025年度 (R 7)	2026年度 (R 8)	
	4,584	5,130	6,024	6,024	6,024	
国県補助等	重層的支援事業交付金（国・県）、地域支援事業交付金（国・県） 等					
役割分担	連携中枢都市：合同研修会等については、関係市町村の中心となって実施する。認知症高齢者等QRコード活用見守り事業については、同システムを利用する圏域内市町村やその他の見守りツールを利用する圏域内市町村と連携して実施する。安心安全につながる取組については、中心となって検討する。 連携市町村：合同研修会等については、各地域包括支援センターへの広報・周知に協力する。認知症高齢者等QRコード活用見守り事業については、福島市をはじめ同システムを利用する圏域内市町村やその他の見守りツールを利用する圏域内市町村と連携して実施する。安心安全につながる取組については、福島市と連携して検討する。					
費用負担	連携中枢都市：合同研修会等については、原則、福島市が負担する。認知症高齢者等QRコード活用見守り事業については実施にかかる費用の一部を負担する。安心安全につながる取組の費用については、連携市町村と協議の上、負担する。 連携市町村：認知症高齢者等QRコード活用見守り事業については、実施にかかる費用の一部を負担する。安心安全につながる取組の費用については、福島市と協議の上、負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	合同研修会の開催回数	—	毎年度1回	—		

取組名	13	障がい者の社会参加促進				SDGs 17の目標	
取組概要	圏域内の様々な公共施設や圏域内で開催される様々なイベント等において障がい者施設等で作られた商品の販売会等を開催し、障がいのある人とない人の交流機会の創出と障がいのある人が手作りした製品の販売促進を図る。 また、圏域関係市町村が連携して「基幹相談支援センター」を設立、運営し、障がい者が地域で安心して自立した社会生活を送れるよう支援する。 さらに、基幹相談支援センターに「障害者虐待防止センター」の機能を加え、障がい者虐待の未然防止、早期発見など適切な支援を行う。						
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	13,676	14,159	13,672	13,672	13,672		
国県補助等	重層的支援事業交付金（国・県）、地域生活支援事業費補助金（国・県）						
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって障がい者施設等で作られた商品の販売会等が開催できる公共施設やイベント等を調整・確保し、開催する。また、基幹相談支援センター等において障がい者の生活支援等を行う。 連携市町村：福島市と連携して障がい者施設等で作られた商品の販売会を開催する。また、基幹相談支援センター等において障がい者の生活支援等を行う。						
費用負担	連携中枢都市：基幹相談支援センター等の運営に必要な費用を負担する。 連携市町村：基幹相談支援センター等の運営に必要な費用を負担する。 ※障がい者施設等で作られた商品の販売会の出店等にかかる費用は原則、各障がい者団体等が負担する。なお、公共施設で開催する場合は、連携市町村において使用料を減免、免除するなどの措置を講ずることを検討する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	障がい者施設等で作られた商品の販売会の開催回数	5回 (令和2年度)	毎年度12回	—			

□連携施策（８）子育て・教育環境の充実

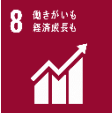
取組名	14	保育所等の広域入所				SDGs 17の目標	
取組概要	転出入や里帰り出産、勤務地の関係などで、圏域内市町村をまたぐ保育所等への広域入所が必要な場合に、圏域市町村間で相互連携を図りながら、円滑な広域入所を実施する。 また、広域入所に係る認定業務等のルール化について検討を行い、保護者の利便性向上と業務の効率化を図る。					3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	-	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：福島市内児童の利用状況を踏まえ、保育所等の広域入所の相互連携を図る。認定業務等のルール化については、関係市町村の中心となって検討する。						
	連携市町村：各市町村の利用状況を踏まえ、保育所等の広域入所の相互連携を図る。認定業務等のルール化については、福島市と連携して検討する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考	
	圏域内市町村をまたぐ保育所等への広域入所を希望した児童のうち、入所に至った児童の割合	71.3% (令和2年度)		80.0% (令和8年度)		—	

取組名	15	ファミリーサポートセンター事業及び病児・病後児保育事業の広域利用の検討				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内各市町村が実施しているファミリーサポートセンター事業と病児・病後児保育事業について、圏域内住民であればどの事業についても会員登録の上、広域利用ができるようにするための検討を行う。					3すべての人に健康と福祉を 5ジェンダー平等を実現しよう 10人や国の不平等をなくそう
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	411	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：実施市町村の利用状況等を把握の上、関係市町村の中心となって検討する。 連携市町村：福島市と連携して検討する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考
	広域利用会員数	50名 (令和3年度)		60名 (令和8年度)		

取組名	16	教職員の広域交流				SDGs 17の目標
取組概要	圏域全体の教育レベルの向上を図るため、圏域内小中学校の教職員の交流を促進し、圏域市町村がそれぞれに実施する特色ある教育施策や生徒指導等のノウハウについて情報を共有するとともに、各市町村で実施している教職員研修に広域的に参加できるよう検討を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	939	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、関係市町村の中心となって情報共有会議等を開催する。 連携市町村：福島市と連携して、情報共有会議等を開催する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	情報共有会議等の 開催回数	—	毎年度2回	—		

取組名	17	公立夜間中学校の入学支援				SDGs 17の目標
取組概要	福島第四中学校天神スクール（公立夜間中学校）にふくしま田園中枢都市圏に住所を有する者が入学した場合には、運営費用に係る市町村負担額を減額する。					
関係市町村	全市町村					
事業費 （千円）	2022年度 （R4）	2023年度 （R5）	2024年度 （R6）	2025年度 （R7）	2026年度 （R8）	
	-	-	-	262	262	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：公立夜間中学校を運営し、ふくしま田園中枢都市圏から入学する者がいる場合は市町村負担額の軽減を行う。 連携市町村：福島市の公立夜間中学校に入学する者がいる場合は、必要な経費を負担する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 （KPI）	指標名	基準値	目標値	備考		
	圏域内住民の入学希望者の受入体制の維持	-	体制の維持	-		

□連携施策（９）文化・スポーツの振興

取組名	18	スポーツ施設の広域利用による大規模な大会等の誘致				SDGs 17の目標	
取組概要	スポーツを核とした圏域の活性化に向け、充実した圏域内スポーツ施設の広域利用により、大規模なスポーツ大会や合宿等を積極的に誘致する。					   	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	2,183	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：大会等誘致に向けた具体的な取組内容について関係市町村の中心となって検討し、誘致する。 連携市町村：福島市と連携して検討し、誘致する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考			
	大会や合宿の誘致 件数	—	毎年度2件	—			

□連携施策（１０）広域的な土地利用の推進

取組名	19	圏域全体の土地利用のあり方の検討				SDGs 17の目標			
取組概要	圏域における都市機能の分担や連携について検討を行う。 また、市街化調整区域における農業環境と調和した土地利用の促進が適正に確保できる制度運用等について研究を行う。					2 飢餓をゼロに  9 産業と技術革新の基盤をつくろう  11 住み続けられるまちづくりを  15 陸の豊かさも守ろう 			
関係市町村	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町								
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)				
	-	-	-	-	-				
国県補助等	-								
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討・研究を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討・研究を行う。								
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。								
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考			
	土地利用の在り方に関する検討会議の開催回数	—		毎年度1回		—			

□連携施策（１１）強みや特長等を生かした地域の振興

取組名	20	圏域産農産物の風評払拭・消費拡大				SDGs 17の目標
取組概要	圏域産農産物の風評被害の払拭と消費拡大を図るため、 ・圏域内にある道の駅や直売所等の連携事業 ・各市町村持ち回りで圏域産食材を提供する福島圏域「絆」day ・市町村連携による圏域産農産物・特産品の販売イベント等に取り組む。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	14,787	10,787	15,392	15,392	15,392	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：具体的な連携事業を連携市町村等と協議の上、実施する。 連携市町村：福島市等と協議の上、実施する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村等と協議の上、決定する。 連携市町村：福島市等と協議の上、決定する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考
	「福島県農産物等流通実態調査」における県産品重点品目のうち、モモ、米、あんぽ柿の全国平均価格との差の改善	(モモ) △9.3% (米) △6.7% (あんぽ柿) △9.3% (令和3年)		(モモ) △5.9% (米) △1.6% (あんぽ柿) △3.5% (令和7年)		※基準値、目標値に記載の年は調査をした年度を示すものとする。

取組名	21	圏域産農産物の利用拡大の検討				SDGs 17の目標	
取組概要	小中学校・保育所の給食等での利用など、圏域産農産物の利用拡大・地産地消を進めていく取組について検討を行う。 ・圏域内外への農産物およびその加工品の販路拡大 ・農産物の提供先として、学校給食にとられず、圏域内外で広く利用の拡大を図る (例) 大学などの学食、企業の社員食堂、レストラン等 ・各市町村持ち回りで圏域産食材を提供する福島圏域「絆」day					2 飢餓をゼロに  8 働きがいも経済成長も  9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	-	-	-	-	-		
国県補助等	-						
役割分担	連携中枢都市：関係機関等との調整を含めて、関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討を行う。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考	
	利用場所の拡大	-		3か所程度		令和5年度末までの目標値	

取組名	22	有害鳥獣対策の強化				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内の農作物被害や人的被害の減少に向けて、有害鳥獣の侵入を防ぐ防止柵の補強や追い上げ体制の強化など、広域連携による有害鳥獣捕獲方法について情報交換等を行う。					 
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	9,955	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって担当者会議等を開催し、情報交換等を行う。 連携市町村：福島市と連携して、情報交換等を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	有害鳥獣による農作物被害額	65,282千円 (令和2年度)	基準値以下 (令和8年度)	—		

取組名	23	高等教育機関等への調査・研究の場の提供				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内各市町村をテストフィールドとした大学等による地域課題解決や地域の活性化に向けた調査・研究を、福島市が橋渡し役となって積極的に支援する。 (例) ・圏域住民と圏域職員によるモニタリング ・広大な自然や各公共施設を活用したテスト会場の提供など					9産業と技術革新の基盤をつくろう 11住み続けられるまちづくりを
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：中心となって大学等との連絡調整等を行い、連携市町村と協議の上、関係市町村の中心となって本取組を推進する。 連携市町村：福島市と連携し、本取組の推進に協力する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	大学等との連携による調査・研究の実施回数	—	毎年度4回	—		

□連携施策（１２）安心安全な災害対策の推進

取組名	24	災害対策の広域連携の推進				SDGs 17の目標
取組概要	平常時においては、災害対策に係る情報交換等を行うとともに、災害時備蓄品の共同購入や相互利用等について検討を行う。 災害時においては、平成9年1月16日に締結した「福島・宮城・山形広域圏災害時相互応援協定書」に基づき、圏域内における生活必需物資の提供や職員派遣などの相互支援を迅速かつ円滑に遂行する。					 
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：平常時においては、関係市町村の中心となって情報交換等を行うとともに、共同購入等について検討を行う。災害時においては、協定に基づく連絡調整市町村として相互支援の総合調整を行う。 連携市町村：平常時においては、福島市と情報交換等を行うとともに、連携して検討を行う。災害時においては、福島市と連携して相互支援を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 ※相互支援に要した費用については、原則として被災市町村の負担（協定書第7条）					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考
	災害時備蓄品の共同購入や相互利用等の実施	—		実施 (令和8年度)		※これまで政策検討プロジェクト会議を開催

□連携施策（１３）ゼロカーボンの推進

取組名	25	再生可能エネルギーの導入推進と水素エネルギーの利用促進				SDGs 17の目標
取組概要	ゼロカーボンの実現に向け、圏域として連携して自然環境や景観等に配慮しながら地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入を進める。 また、令和4年度に福島市内に定置式水素ステーションが開設されたことから、福島市水素社会実現推進協議会等と連携して水素エネルギーの普及啓発イベント等を開催するなど、水素エネルギーの利用促進に向けた取り組みを進める。					 
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	1,040	471	242	242	242	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：再生可能エネルギーの具体的な連携事業については、連携市町村と協議の上、決定する。水素エネルギーについては、中心となって普及啓発イベント等を開催するほか、利用促進に向けた意見交換や具体的取組の検討等を行う。					
	連携市町村：再生可能エネルギーについては、福島市と協議の上、決定する。水素エネルギーについては、各市町村の住民や企業等への広報、周知等により、普及啓発イベントの開催等に協力するほか、利用促進に向けた意見交換や具体的取組の検討等を行う。					
費用負担	連携中枢都市：再生可能エネルギーについては、連携市町村と協議の上、負担する。水素エネルギーについては、原則として福島市が負担する。					
	連携市町村：各市町村が実施する広報、周知等に必要な費用を負担する。再生可能エネルギーについては、福島市と協議の上、負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値		備考	
	ゼロカーボンの推進に寄与するイベント等の開催回数	—	毎年度1回		—	

□連携施策（１４）地域公共交通の充実

取組名	26	地域公共交通の確保と利用促進				SDGs 17の目標	
取組概要	圏域住民の移動手段の維持・確保を図るため、関係市町村が連携して圏域内市町村等を結ぶ「広域生活路線バス」や「鉄道」の運行を担う交通事業者を支援する。 また、「広域生活路線バス」や「鉄道」を補完するために各市町村が実施するデマンドタクシーやコミュニティバスなどの「小さな交通」も含めた地域公共交通機関マップの作成など、地域公共交通の利用促進に向けた取組について検討を行う。					8経済成長を 図る 9産業と観光事業の 革新をつくる 11住み続けられる まちづくりを	
関係市町村	全市町村						
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)		
	367,948	477,728	187,220	187,220	187,220		
国県補助等	福島県市町村生活交通対策事業補助金 等						
役割分担	連携中枢都市：連携市町村と連携して交通事業者を支援する。また、利用促進に向けて関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して交通事業者を支援する。また、利用促進に向けて福島市と連携して検討する。						
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と連携して交通事業者を支援する。また、利用促進に向けた検討については、連携市町村と協議の上、必要に応じて負担する。 連携市町村：福島市と連携して交通事業者を支援する。また、利用促進に向けた検討については、福島市と協議の上、必要に応じて負担する。						
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値		目標値		備考	
	地域間幹線系統路線バスの路線数	16路線 (令和2年度)		基準値を維持 (令和8年度)		運行事業者	

□連携施策（１５）DXの推進

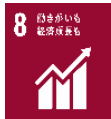
取組名	27	自治体情報システム等の運用に向けた情報交換				SDGs 17の目標
取組概要	国が策定した「自治体DX推進計画」において、地方自治体が重点的に取り組むべきとされている住民票や税、介護保険等にかかる「自治体情報システムの標準化・共通化」及びマイナンバーカードにかかる「行政手続のオンライン化」などについて、単独自治体の職員では専門的知見も少ないことから、圏域全体で知見を深めるための情報交換等を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって情報交換会等を開催する。 連 携 市 町 村：福島市と連携し、情報交換会等を開催する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連 携 市 町 村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値		備考	
	自治体情報システム運用に関する情報交換会の開催回数	—	毎年度1回		※これまで政策検討プロジェクト会議を開催	

取組名	28	入札参加資格申請受付システム導入の検討				SDGs 17の目標
取組概要	申請業者の負担軽減や受付職員の業務効率化を図るとともに、ペーパーレス化を推進するため、入札参加資格申請受付システムの導入について検討を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	システム導入に関する検討会議の開催回数	—	毎年度1回	※これまで政策検討プロジェクト会議を開催		

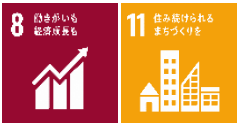
取組名	29	圏域内航空写真の合同撮影				SDGs 17の目標
取組概要	GIS（地理情報システム）内での活用による固定資産税課税や各種台帳等の整備など、効率的な行政事務を行えるようにするため、合同で圏域内航空写真の撮影及び写真図作成を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 （千円）	2022年度 （R4）	2023年度 （R5）	2024年度 （R6）	2025年度 （R7）	2026年度 （R8）	
	-	-	-	77,440	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：連携市町村と協議し、航空写真の合同撮影及び写真図作成を行う。 連携市町村：福島市と協議し、航空写真の合同撮影及び写真図作成を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要な費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要な費用を負担する。					
重要業績 評価指標 （KPI）	指標名	基準値	目標値	備考		
	航空写真撮影への 参加する自治体数	—	全市町村			

□連携施策（１６）ポストコロナ時代のゆとりあるライフスタイルの形成

取組名	30	出会いの場の創出				SDGs 17の目標
取組概要	結婚に対する意識の向上を図り、将来的な移住定住・人口増加につなげるため、独身男女の出会いの場を創出するイベントを開催する。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	1,000	1,500	1,000	1,000	1,000	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：具体的な連携事業について連携市町村と協議の上、実施する。 連携市町村：福島市と協議の上、実施する。					
費用負担	連携中枢都市：均等割と人口割にて算出した負担金を負担する。 連携市町村：均等割と人口割にて算出した負担金を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	婚活イベント参加者のカップリング数	—	毎年度5組	—		

取組名	31	移住定住の促進				SDGs 17の目標
取組概要	圏域への移住定住の促進を図るため、圏域市町村の魅力や暮らし、住まいや仕事などの情報発信を行うとともに、移住イベント等を開催する。また、今後の移住定住施策の参考とするため、本圏域に移住した方に対しニーズ調査等を実施するとともに、移住後の不安や悩みを解決するためのきめ細やかな定住サポートを行い、圏域全体で情報を共有し意識の向上を図る。					 
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	3,674	3,500	3,678	3,678	3,678	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：事業主体となる福島圏域移住定住促進協議会の事務局を担当し、事業を実施する。					
	連携市町村：福島圏域移住定住促進協議会の構成市町村として福島市と連携して事業を実施する。					
費用負担	連携中枢都市：均等割と人口割にて算出した負担金を負担する。 連携市町村：均等割と人口割にて算出した負担金を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値		備考	
	圏域への移住・暮らしに対する興味・関心度の向上の割合	—	80% (令和8年度)		イベント参加者のアンケート結果	

□連携施策（１７）雇用対策の充実

取組名	32	圏域内企業への若者の就職支援				SDGs 17の目標
取組概要	若者の圏域内企業への就職と早期離職防止を図るため、圏域内の高校生等を対象に、各業界を代表する圏域内企業の事業内容や圏域内で働くことの魅力を紹介し、生徒等の職業理解を促すセミナー等を開催する。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	2,175	2,091	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となってハローワーク福島や圏域内企業との調整を行い、セミナー等を開催する。 連携市町村：福島市と連携し、セミナー等を開催する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	セミナー等の開催回数	3回 (令和3年度) ※福島市開催	3回 (令和8年度) ※圏域開催	—		

□連携施策（１８）圏域内公共施設等の相互利用の推進

取組名	33	公共施設の相互利用の検討				SDGs 17の目標
取組概要	効率的で質の高い行財政経営の推進と住民の利便性向上による施設の利用促進を図るため、スポーツ施設や文化施設等へのキャッシュレス決済を含む「公共施設予約システム」の共同利用や圏域住民への図書貸出サービスの推進等について検討を行う。					9産業と技術革新の基盤をつくろう 11住み続けられるまちづくりを
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	29,224	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	公共施設予約システムの導入施設数	36施設 (福島市のみ) (令和3年度)	連携市町村も導入 (令和8年度)	※これまで政策検討プロジェクト会議を開催		

取組名	34	災害廃棄物等処理の広域連携の推進				SDGs 17の目標
取組概要	災害時及び一般廃棄物処理施設の事故の際においては、令和3年6月18日に締結した「福島県災害廃棄物等の処理に係る相互応援に関する協定書」に基づき、災害廃棄物等の処理に関する必要な相互応援を迅速かつ円滑に遂行する。					11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：県と連携して、連携中枢都市として相互応援の総合調整を行う。 連携市町村：福島市と連携して相互応援を行う。					
費用負担	連携中枢都市：相互応援に要した費用については、原則として応援を要請した市町村が負担する。 連携市町村：相互応援に要した費用については、原則として応援を要請した市町村が負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	災害時及び一般廃棄物処理施設の事故の際の相互応援	実施	実施	—		

□連携施策（１９）圏域内市町村職員の育成

取組名	35	合同職員研修会等の開催				SDGs 17の目標
取組概要	圏域内職員の交流と行財政経営能力の向上を図るため、福島市が合同職員研修会等を開催する。				 	
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	492	492	-	-	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって研修内容や参加者等の調整を行い、研修会等を開催する。 連携市町村：福島市と連携し、研修会等を開催する。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	合同職員研修の実施件数	2件 (令和2年度)	毎年度2件	—		

□連携施策（２０）公営企業の広域連携の推進

取組名	36	水道事業における広域連携の推進				SDGs 17の目標
取組概要	持続可能な水道経営を進めていくために、より効率的な経営手法や互いの技術レベルの向上などに向けて、各事業体での広域連携について検討を行う。					
関係市町村	全市町村					
事業費 (千円)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	
	-	-	-	111,150	-	
国県補助等	-					
役割分担	連携中枢都市：関係市町村の中心となって広域連携の推進について検討を行う。 連携市町村：福島市と連携して広域連携の推進について検討を行う。					
費用負担	連携中枢都市：連携市町村と協議の上、必要に応じて費用を負担する。 連携市町村：福島市と協議の上、必要に応じて費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標名	基準値	目標値	備考		
	共同購入、共同委託案件の抽出	-	案件の抽出	-		

資料編

1. 市町村別の若年層（20歳～29歳）人口の推移

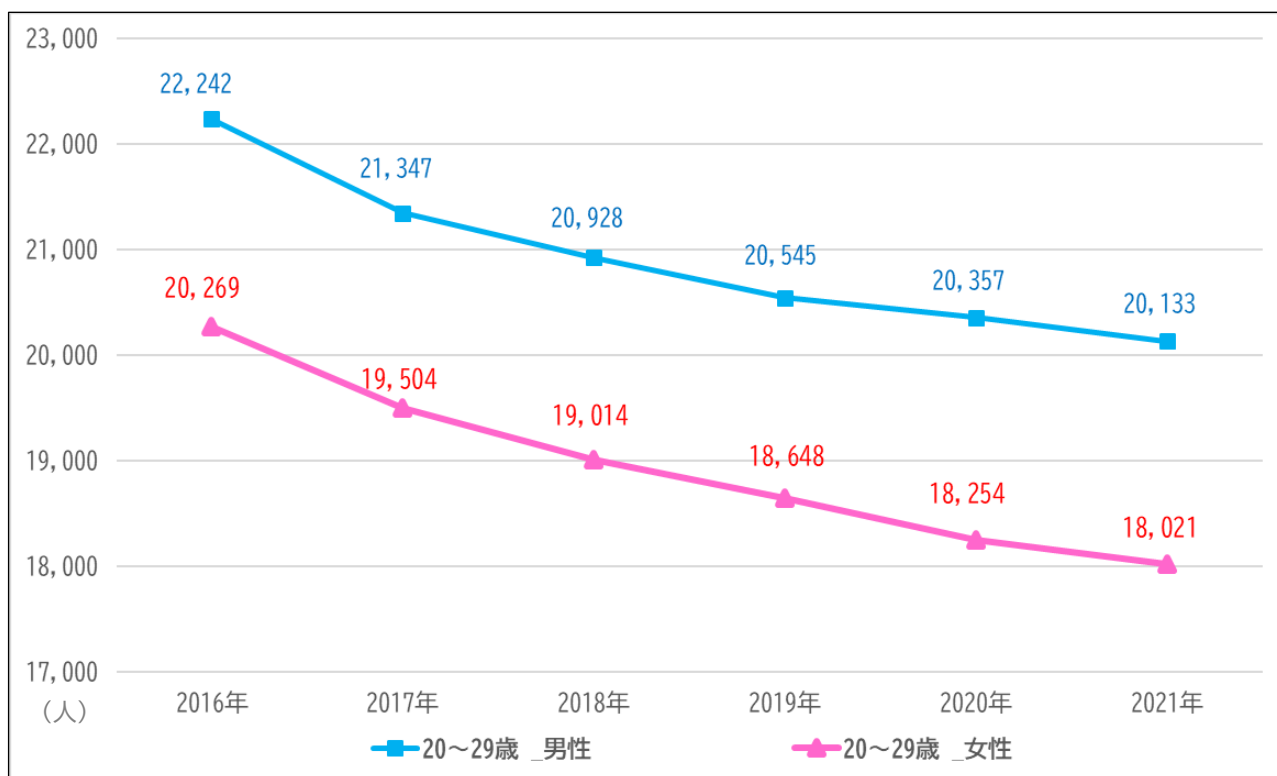
（単位：人）

市町村	項目	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)
福島市	総数	293,465	291,582	289,524	287,401	285,731	283,742
	男	144,350	143,289	142,169	141,074	140,168	139,046
	女	149,115	148,293	147,355	146,327	145,563	144,696
	20～29歳	26,762	25,993	25,647	25,188	25,004	24,846
	男	13,937	13,572	13,425	13,174	13,179	13,090
	女	12,825	12,421	12,222	12,014	11,825	11,756
二本松市	総数	57,665	56,861	56,231	55,651	54,923	54,237
	男	28,503	28,091	27,778	27,540	27,182	26,795
	女	29,162	28,770	28,453	28,111	27,741	27,442
	20～29歳	4,681	4,396	4,304	4,279	4,152	4,009
	男	2,468	2,304	2,268	2,266	2,177	2,107
	女	2,213	2,092	2,036	2,013	1,975	1,902
伊達市	総数	61,826	61,066	60,308	59,645	58,815	57,993
	男	30,270	29,881	29,429	29,138	28,709	28,351
	女	31,556	31,185	30,879	30,507	30,106	29,642
	20～29歳	4,599	4,307	4,158	4,095	3,981	3,922
	男	2,409	2,226	2,145	2,118	2,077	2,040
	女	2,190	2,081	2,013	1,977	1,904	1,882
本宮市	総数	30,827	30,765	30,655	30,589	30,318	30,189
	男	15,179	15,149	15,128	15,118	14,985	14,904
	女	15,648	15,616	15,527	15,471	15,333	15,285
	20～29歳	2,677	2,593	2,466	2,395	2,358	2,389
	男	1,407	1,369	1,326	1,271	1,266	1,283
	女	1,270	1,224	1,140	1,124	1,092	1,106
桑折町	総数	12,129	12,047	11,936	11,720	11,580	11,336
	男	5,767	5,722	5,666	5,565	5,530	5,446
	女	6,362	6,325	6,270	6,155	6,050	5,890
	20～29歳	836	781	749	717	702	684
	男	434	407	396	391	388	374
	女	402	374	353	326	314	310
国見町	総数	9,430	9,297	9,148	8,955	8,775	8,584
	男	4,556	4,475	4,421	4,338	4,231	4,133
	女	4,874	4,822	4,727	4,617	4,544	4,451
	20～29歳	641	618	599	555	533	495
	男	326	305	303	282	265	245
	女	315	313	296	273	268	250
川俣町	総数	14,264	13,950	13,493	13,140	12,821	12,487
	男	7,201	7,052	6,814	6,667	6,504	6,335
	女	7,063	6,898	6,679	6,473	6,317	6,152
	20～29歳	892	796	702	685	687	708
	男	521	460	397	388	381	401
	女	371	336	305	297	306	307

市町村	項目	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)
大玉村	総数	8,722	8,747	8,856	8,950	8,940	8,901
	男	4,343	4,342	4,378	4,439	4,460	4,420
	女	4,379	4,405	4,478	4,511	4,480	4,481
	20～29歳	823	796	793	809	777	722
	男	436	416	413	425	422	397
	女	387	380	380	384	355	325
飯舘村	総数	6,193	6,000	5,809	5,596	5,358	5,158
	男	3,060	2,984	2,898	2,796	2,676	2,580
	女	3,133	3,016	2,911	2,800	2,682	2,578
	20～29歳	600	571	524	470	417	379
	男	304	288	255	230	202	196
	女	296	283	269	240	215	183
圏域全体	総数	494,521	490,315	485,960	481,647	477,261	472,627
	男	243,229	240,985	238,681	236,675	234,445	232,010
	女	251,292	249,330	247,279	244,972	242,816	240,617
	20～29歳	42,511	40,851	39,942	39,193	38,611	38,154
	男	22,242	21,347	20,928	20,545	20,357	20,133
	女	20,269	19,504	19,014	18,648	18,254	18,021

資料：福島県現住人口調査 年齢（5歳階級）別人口－各年5月1日現在
飯舘村は住民基本台帳人口（各年5月1日現在）

【圏域の男女別若年層（20歳～29歳）人口の推移】



2. 圏域内の産業の状況

(1) 産業3部門の状況

①産業別事業所数

市町村	第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計	
	(事業所数)	(構成比)	(事業所数)	(構成比)	(事業所数)	(構成比)	(事業所数)	(構成比)
福島市	37	33.9%	1,862	46.5%	10,873	64.5%	12,772	60.9%
二本松市	27	24.8%	636	15.9%	1,787	10.6%	2,450	11.7%
伊達市	19	17.4%	648	16.2%	1,899	11.3%	2,566	12.2%
本宮市	5	4.6%	370	9.2%	1,046	6.2%	1,421	6.8%
桑折町	3	2.8%	121	3.0%	370	2.2%	494	2.4%
国見町	4	3.7%	89	2.2%	233	1.4%	326	1.6%
川俣町	5	4.6%	183	4.6%	463	2.7%	651	3.1%
大玉村	8	7.3%	70	1.7%	157	0.9%	235	1.1%
飯舘村	1	0.9%	26	0.6%	21	0.1%	48	0.2%
圏域全体	109	100.0%	4,005	100.0%	16,849	100.0%	20,963	100.0%

(県全体に対する圏域の割合)

福島県	640	—	17,436	—	67,884	—	85,960	—
圏域全体	109	17.0%	4,005	23.0%	16,849	24.8%	20,963	24.4%

資料：平成28年経済センサス－活動調査

※第1次産業の事業所は法人格を持つ農林業者で、個人の農家等は含まない

②産業別従業者数

市町村	第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計	
	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)	(人)	(構成比)
福島市	403	35.3%	28,104	47.8%	101,790	70.7%	130,297	63.9%
二本松市	219	19.2%	9,757	16.6%	12,192	8.5%	22,168	10.9%
伊達市	258	22.6%	7,113	12.1%	12,575	8.7%	19,946	9.8%
本宮市	50	4.4%	6,612	11.3%	9,276	6.4%	15,938	7.8%
桑折町	36	3.2%	2,493	4.2%	2,341	1.6%	4,870	2.4%
国見町	53	4.6%	944	1.6%	1,492	1.0%	2,489	1.2%
川俣町	37	3.2%	2,613	4.4%	2,795	1.9%	5,445	2.7%
大玉村	67	5.9%	731	1.2%	1,441	1.0%	2,239	1.1%
飯舘村	18	1.6%	376	0.6%	158	0.1%	552	0.3%
圏域全体	1,141	100.0%	58,743	100.0%	144,060	100.0%	203,944	100.0%

(県全体に対する圏域の割合)

福島県	7,626	—	244,202	—	554,302	—	806,130	—
圏域全体	1,141	15.0%	58,743	24.1%	144,060	26.5%	203,944	25.3%

資料：平成28年経済センサス－活動調査

※第1次産業の従業者は法人格を持つ農林業者で、個人の農家等は含まない

(2) 製造業

市町村	事業所数		従業者数		製造品出荷額		付加価値額	
	(所)	(構成比)	(人)	(構成比)	(百万円)	(構成比)	(百万円)	(構成比)
福島市	324	39.9%	17,147	42.8%	563,687	43.0%	227,027	46.1%
二本松市	145	17.8%	7,391	18.4%	197,524	15.1%	71,846	14.6%
伊達市	133	16.4%	4,307	10.8%	169,608	13.0%	38,204	7.8%
本宮市	85	10.5%	5,503	13.7%	262,961	20.1%	86,614	17.6%
桑折町	33	4.1%	2,438	6.1%	52,941	4.0%	31,707	6.4%
国見町	20	2.5%	660	1.6%	12,027	0.9%	6,586	1.3%
川俣町	46	5.7%	1,778	4.4%	31,724	2.4%	14,532	3.0%
大玉村	22	2.7%	591	1.5%	14,639	1.1%	12,736	2.6%
飯舘村	5	0.6%	248	0.6%	4,487	0.3%	2940	0.6%
圏域全体	813	100.0%	40,063	100.0%	1,309,598	100.0%	492,192	100.0%

(県全体に対する圏域の割合)

福島県	3,518	—	160,250	—	5,246,465	—	2,203,044	—
圏域全体	813	23.1%	40,063	25.0%	1,309,598	25.0%	492,192	22.3%

資料：RESAS 2018 年 経済産業省「工業統計調査」再編加工、
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

(3) 農業

市町村	農業産出額（推計）		販売農家数	
	(千万円)	(構成比)	(戸)	(構成比)
福島市	1,783	31.1%	3,094	30.8%
二本松市	961	16.7%	2,097	20.9%
伊達市	1,626	28.3%	2,136	21.3%
本宮市	236	4.1%	881	8.8%
桑折町	304	5.3%	486	4.8%
国見町	338	5.9%	532	5.3%
川俣町	189	3.3%	251	2.5%
大玉村	289	5.0%	530	5.3%
飯舘村	14	0.2%	39	0.4%
圏域全体	5,740	100.0%	10,046	100.0%

(県全体に対する圏域の割合)

福島県	20,657	—	41,060	—
圏域全体	5,740	27.8%	10,046	24.5%

資料：農林水産省 令和元年市町村別農業産出額（推計）、2020 年農林業センサス

3. 圏域内の都市機能の集積状況

(1) 医療

①医療機関数

市町村	病院数	一般診療所数
福島市	21	250
二本松市	3	41
伊達市	3	42
本宮市	2	16
桑折町	0	7
国見町	1	4
川俣町	1	13
大玉村	0	1
飯舘村	0	2
圏域全体	31	376

資料：令和元年福島県保健統計の概況

②医療従事者

市町村	全産業 従業者数 (人)	うち医療業 従業者数 (人)	医療業従業者数 の割合
福島市	115,159	12,837	11.1%
二本松市	16,644	580	3.5%
伊達市	15,204	1,665	11.0%
本宮市	8,971	685	7.6%
桑折町	3,297	73	2.2%
国見町	1,506	41	2.7%
川俣町	4,107	74	1.8%
大玉村	1,521	9	0.6%
飯舘村	382	2	0.5%
圏域全体	166,791	15,966	9.6%
福島県	659,939	54,800	8.3%
全国	54,860,724	3,843,440	7.0%

資料：RESAS「産業構造マップ」2016年 従業者数（企業単位）中分類

③救急医療機関等

区分		市町村	医療機関等
三次救急		福島市	公立大学法人福島県立医科大学附属病院
二次救急	救急告示病院	福島市	福島赤十字病院
			一般財団法人大原記念財団大原総合病院
			済生会福島総合病院
			医療生協わたり病院
			福島西部病院
			福島第一病院
			福島南循環器科病院
			あづま脳神経外科病院
			一般財団法人脳神経疾患研究所附属南東北福島病院
			公立大学法人福島県立医科大学附属病院
		二本松市	医療法人辰星会柎記念病院
			独立行政法人地域医療機能推進機構二本松病院
		伊達市	北福島医療センター
		本宮市	医療法人慈久会谷病院
	国見町	公立藤田総合病院	
	川俣町	済生会川俣病院	
	病院群輪番制	福島市	福島市救急医療病院群輪番制運営協議会（11 病院）
		二本松市	安達地方広域行政組合（4病院）
		本宮市	
		大玉村	
伊達市		伊達地方病院群輪番制協議会（3病院）	
桑折町			
国見町			
川俣町			
飯舘村	相馬地方病院群輪番制協議会（6病院）		
一次救急		福島市	福島市夜間急病診療所
			福島市休日救急歯科診療所
基幹災害拠点病院		福島市	公立大学法人福島県立医科大学附属病院
地域災害拠点病院		福島市	福島赤十字病院
総合周産期母子医療センター		福島市	公立大学法人福島県立医科大学附属病院
地域周産期母子医療センター		福島市	一般財団法人大原記念財団大原総合病院

資料：第七次福島県医療計画

【参考】 三次救急医療機関：その他の医療機関では対応できない重篤患者への医療を担当し、地域の救急患者を最終的に受け入れる役割を果たす。

二次救急医療機関：地域で発生する救急患者への診療と応急処置を行い、必要に応じて入院治療を行う。

(2) 教育

①高等教育機関

分類	所在地	区分	学校	学部・学科等	学生数 (人)
大学	福島市	国立	福島大学	人間発達文化学類	3,041
				行政政策学類	
				経済経営学類	
				共生システム理工学類	728
				食農学類	311
				大学院	251
		県立	福島県立医科大学	医学部	799
				看護学部	339
				保健科学部	143
				大学院	289
		私立	福島学院大学	福祉学部	401
				大学院	14
短期 大学	福島市	私立	福島学院大学 短期大学部	保育学科	302
				食物栄養学科	
				情報ビジネス学科	
			桜の聖母短期大学	生活科学科	269
				キャリア教養学科	

資料：令和3年度「福島市の教育」

②専修学校

所在地	学校
福島市	福島県立総合衛生学院、尚志学園専修学校、有朋高等学院、福島看護専門学校、大原看護専門学校、フィジカルムーブメント専門学校、学校法人福島県高等理容美容学院
二本松市	福島介護福祉専門学校

資料：福島県ホームページ 令和2年度私立学校名簿

(3) 公共施設

①図書館・図書室

市町村	図書館・公民館図書室	蔵書数(冊)	貸出数(冊)
福島市	福島県立図書館	1,220,595	143,296
	福島市立図書館	858,143	828,805
	西口ライブラリー	38,110	
	子どもライブラリー	33,648	
二本松市	二本松図書館	97,004	147,448
	岩代図書館	75,758	28,859
伊達市	伊達市立図書館	180,574	127,838
本宮市	本宮市立しらさわ夢図書館	125,524	119,985
	中央公民館図書室		
桑折町	中央公民館分室「遊学館よも～よ」	24,506	15,446
国見町	国見町図書館	38,456	14,226
川俣町	川俣町中央公民館	24,720	17,864
大玉村	あだたらふるさとホール	19,869	9,012
飯舘村	飯舘村交流センターふれ愛館	4,228	354
圏域全体		2,812,893	1,510,695

資料：福島県公共図書館等実態調査報告 2021(令和3)年度版、各市町村

②スポーツ施設

<体育館>

市町村	施設
福島市	あづま総合体育館、福島トヨタクラウンアリーナ、西部体育館、東部体育館、南体育館、NCVふくしまアリーナ、十六沼公園(体育館)、清沢地区体育館、松川地区体育館、飯野地区体育館
二本松市	城山総合体育館、城山第二体育館、岳下体育館、あだたら体育館、石井体育館、大平体育館、安達体育館、岩代第二体育館、新殿体育館、旭体育館、東和第一体育館、東和第二体育館、二本松住民センター体育室、塩沢住民センター体育室、杉田住民センター(体育館)、木幡住民センター体育館、水舟体育館、戸沢住民センター(体育室)
伊達市	伊達体育館、梁川体育館、保原体育館、保原第二体育館(ユニー体育館)、月館体育館、霊山体育館
本宮市	本宮運動公園総合体育館、白沢体育館、荒井体育館、仁井田体育館、長屋体育館、稲沢体育館
桑折町	桑折町民体育館
国見町	観月台文化センター体育館、上野台総合運動公園(上野台体育館、柏葉体育館)、森江野第2体育館、国見東部高齢者等活性化センター体育館

川俣町	川俣町体育館
大玉村	村民体育館
飯舘村	体育館（飯舘村立いいたて希望の里学園）※社会体育施設として貸出

<野球場>

市町村	施設
福島市	あづま球場、信夫ヶ丘球場、飯坂野球場、飯野野球場
二本松市	安達野球場
伊達市	ほばら大泉球場（保原総合公園）
本宮市	しらさわグリーンパーク野球場、神座運動場、白沢野球場
飯舘村	いいたて球場（いいたてスポーツ公園）

<水泳場>

市町村	施設
福島市	あづま総合運動公園室内プール、中央市民プール、森合市民プール
二本松市	二本松しんきん城山プール
伊達市	梁川プール、保原プール
本宮市	子ども屋外プール、市民屋内プール、白沢B & G海洋センター
桑折町	屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」
国見町	上野台総合運動公園（プール）
大玉村	村民プール

<その他スポーツ施設等>

市町村	施設
福島市	あづま総合運動公園（とうほう・みんなのスタジアム、補助陸上競技場、テニスコート等）、福島市相撲場、誠電社WINDYスタジアム、十六沼公園（スポーツ広場、テニスコート、サッカー場、スケートボードパーク、屋根付運動場）、森合運動公園（弓道場、インテックテニスガーデン、多目的広場）、飯坂武道場、信夫ヶ丘総合運動公園運動施設、荒川運動公園運動施設、松川運動公園運動施設、長老橋運動公園運動施設、須川運動公園運動施設、蓬萊中央公園運動施設、あぶくま川サイクリングロード、NCVふくしまパークゴルフ場、野田地区運動場、下川崎地区運動場、上鳥渡地区運動場、平野地区運動場、庭坂簡易運動場、飯野地区運動場、湯野地区運動場、清沢地区運動場、松川地区運動場、千貫森庭球場、クレイ射撃場
二本松市	城山総合グラウンド、城山庭球場、二本松屋内ゲートボール場、城山弓道場、岳公園庭球場、岳公園グラウンド、岩代運動場、岩代テニスコート、屋内ゲートボール場「岩代お達者道場」、屋内ゲートボール場「すばーく東和」、カンントリーパークとうわ、二本松市総合射撃場、阿武隈漕艇場

伊達市	伊達運動場、東運動場、伊達庭球場、伊達屋内運動場（ファミリーパークだて）、五十沢運動広場、大枝農村広場、白根農村広場、山舟生農村広場、梁川テニスコート、梁川弓道場、梁川屋内ゲートボール場、梁川屋内・屋外運動場（パレオパークやながわ）、保原総合公園（ほばら大泉グラウンド、ほばら大泉テニスコート、ほばら大泉相撲場、伊達市パークゴルフ場）、中瀬グラウンド、上保原屋内運動場（スマイルパークほばら）、霊山運動広場、月舘運動場、屋内ゲートボール場（すぱーく月舘）
本宮市	本宮運動公園多目的グラウンド、本宮運動公園みんなの原っぱ運動広場（ランニングコース）、本宮運動公園庭球場、コミュニティ交流広場パークゴルフ場、屋内運動場（まゆみアリーナ）、しらさわグリーンパークサッカー場、白沢シルバースポーツセンター、白沢庭球場、白沢柔剣道場、青田運動場、荒井運動場、仁井田運動場、白沢運動場
桑折町	桑折テニスコート、桑折町民運動場
国見町	上野台運動公園（総合運動場、テニスコート、グリーンアリーナ923）
川俣町	おてひめわくわくランド（川俣町子どもの屋内運動場）
大玉村	村民運動場、村民テニスコート
飯舘村	陸上競技場・サッカー場、屋内・屋外コート（いいたてスポーツ公園）

資料：各市町村

③文化ホール・文化施設等

市町村	施設
福島市	とうほう・みんなの文化センター、福島県立美術館、パルセいいざか、ふくしん夢の音楽堂、福島市市民会館、キョウワグループ・テルサホール、A・O・Z（アオウゼ）、こむこむ、じょーもびあ宮畑、福島市民家園、福島市写真美術館、古関裕而記念館、旧堀切邸、旧佐久間邸、御倉邸、草心苑、U F Oふれあい館、浄土平天文台
二本松市	岩代総合文化ホール、二本松市民会館、安達文化ホール、東和文化センター、コンサートホール、市民交流センター、二本松市勤労者研修センター、大山忠作美術館、地域文化伝承館、歴史資料館、道の駅「安達」智恵子の里・和紙伝承館
伊達市	伊達市ふるさと会館、伊達市梁川美術館、伊達市保原歴史文化資料館・旧亀岡家住宅（保原総合公園）
本宮市	サンライズもとみや、本宮市地域交流センター（モコステーション）、えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）、プリンス・ウィリアムズ・パーク英国庭園、スマイルキッズパーク（屋内あそび場・屋外あそび場）、恵向公園（ドッグラン）、白沢ふれあい文化ホール、歴史民俗資料館、中央公民館、白沢公民館、岳山ふれあい実習館
桑折町	桑折町屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ!」、うぶかの郷、種徳美術館、旧伊達郡役所
国見町	国見町観月台文化センター、文化財センター「あつかし歴史館」

川俣町	川俣町中央公民館、羽山の森美術館、からりこ館、おりもの展示館
大玉村	大玉村農村環境改善センター、あだたらふるさとホール
飯舘村	宿泊体験館きこり、交流センターふれ愛館

資料：各市町村

(4) 商業施設等

区分	市町村	施設・店舗数	施設、店舗
高度な中心拠点施設	福島市	(1)	福島駅東口地区市街地再開発事業※令和9年度開館予定 ①福島駅前交流・集客拠点施設（コンベンション・交流機能） ②商業、業務（オフィス） ③ホテル ④住居（分譲マンション） ⑤駐車場（自走式）
主要ショッピングセンター (10,000㎡以上)	福島市	2	イオン福島店、ダイユーエイトMAX
	伊達市	(1)	イオンモール伊達 ※令和8年開業予定
	本宮市	1	エイトタウン本宮
	大玉村	1	SUPER CENTER PLANT-5大玉店
道の駅	福島市	2	つちゆ、ふくしま
	二本松市	3	安達（上り線・下り線）、ふくしま東和、さくらの郷
	伊達市	1	伊達の郷りょうぜん
	国見町	1	国見あつかしの郷
	川俣町	1	川俣
	飯舘村	1	いいたて村の道の駅までい館

資料：各施設・店舗ホームページ、各市町村

※施設・店舗数の（ ）は、開業予定の施設・店舗数を表す

(5) 交通

区分		主な路線、 I C、駅	
高速道路		①東北自動車道（令和元年度年間IC別出入台数（単位：台））	
		本宮IC	3,220,490
		二本松IC	2,066,383
		福島松川スマートIC	879,366
		福島西IC	4,094,281
		福島飯坂IC	3,026,477
		国見IC	1,320,386
		②東北中央自動車道（令和元年度年間IC別出入台数（単位：台））	
		霊山飯舘IC	（公表データなし）
		霊山IC	
		伊達中央IC	
		伊達桑折IC	
福島大笹生IC			
鉄道	J R 東日本	①東北新幹線	
		②山形新幹線	
		（令和2年度1日平均乗車人員（単位：人））※2路線共通	
		福島駅	4,557
		③東北本線（令和元年度年間乗車人員（単位：千人））	
		五百川駅	（無人駅）
		本宮駅	630
		杉田駅	（無人駅）
		二本松駅	608
		安達駅	279
		松川駅	398
		金谷川駅	1,022
		南福島駅	614
		福島駅	5,936
		東福島駅	254
		伊達駅	362
		桑折駅	228
		藤田駅	237
		貝田駅	（無人駅）

区分		主な路線、駅	
鉄道	J R 東日本	④山形線[奥羽本線]（令和元年度年間乗車人員（単位：千人））	
		福島駅	（無人駅）
		笹木野駅	（無人駅）
		庭坂駅	（無人駅）
	阿武隈急行	阿武隈急行線（令和元年度年間乗車人員（単位：千人））	
		福島駅	708
		卸町駅	110
		福島学院前駅	115
		瀬上駅	62
		向瀬上駅	7
		高子駅	18
		上保原駅	73
		保原駅	184
		大泉駅	86
		二井田駅	10
		新田駅	43
		梁川駅	82
		やながわ希望の森公園前駅	55
		富野駅	7
		兜駅	0
	福島交通	飯坂線（令和元年度年間乗車人員（単位：千人））	
		福島駅	2,371
		曾根田駅	
		美術館図書館前駅	
		岩代清水駅	
		泉駅	
		上松川駅	
		笹谷駅	
		桜水駅	
		平野駅	
		医王寺前駅	
		花水坂駅	
		飯坂温泉駅	

区分		系統	
路線バス (地域間幹線系統※)	福島交通(株)	地域間幹線系統（令和２年度年間輸送人員（単位：人））	
		①藤田（福島駅東口～国見役場）	57,060
		②桑折（福島駅東口～桑折駅前）	35,102
		③伊達（福島駅東口～北福島医療センター）	45,817
		④伊達経由保原（福島駅東口～猫川）	70,291
		⑤伊達経由掛田（福島駅東口～掛田駅前）	88,291
		⑥医大立子山経由飯野（福島駅東口～飯野町）	36,167
		⑦月の輪経由梁川（福島駅東口～塩野川）	87,926
		⑧月の輪経由保原 （福島駅東口～保原バスセンター）	79,462
		⑨月舘経由川俣（福島駅東口～京田）	23,561
		⑩大波経由掛田（福島駅東口～掛田駅前）	80,725
		⑪伊達経由湯野（福島駅東口～湯野駅）	34,329
		⑫医大経由二本松（福島駅東口～若宮二丁目）	119,031
		⑬医大・川俣経由南相馬（福島駅東口～南相馬）	15,090
	(有)カネハ タクシー	⑭川俣松川（川俣高校前～松川駅）	9,603
	ジェイアー ルバス東北 (株)	⑮川俣飯野（川俣高校前～飯野町）	2,267
		⑯川俣（福島駅東口～川俣高校前）	112,140

資料：福島県企画調整部統計課編福島県統計年鑑、ＪＲ東日本ホームページ及び各交通事業者
（鉄道の（無人駅）は乗車人員未調査）

○地域間幹線系統：複数市町村にまたがり、都道府県庁所在地や広域行政圏の中心市町への需要等に対応し、総合病院、学校、商業施設等への広域的な移動の足となる路線バス
令和４年２月１日現在、福島市と連携市町村を結ぶ系統は１６路線

4. SDGsの各目標の内容

目標	内容	目標	内容
 1 貧困をなくそう	1 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する
 2 飢餓をゼロに	2 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	 11 住み続けられるまちづくりを	11 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
 3 すべての人に健康と福祉を	3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 12 つくる責任 つかう責任	12 つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する
 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	 13 気候変動に具体的な対策を	13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 14 海の豊かさを守ろう	14 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	 15 陸の豊かさも守ろう	15 陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 16 平和と公正をすべての人に	16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 8 働きがいも経済成長も	8 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	17 パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		